

年報 14

平成 9 年度

1 9 9 8 . 3

山梨県埋蔵文化財センター

年報 14

平成 9 年度

1 9 9 8 . 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されましてから、今年度で16年が経過し、この間、当センターが発掘調査を行ってまいりました遺跡は260件を超えて、刊行しました発掘調査報告書も150冊以上となりました。これらの内容は、旧石器時代から近現代に至るまで幅広く、本県の歴史の解明に大きく役立つものと信じております。また、発掘調査で得られた貴重な資料は、「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の貸し出し等により本県の歴史を理解していくための啓蒙普及活動に県内外で広く活用され、その内容も年々充実したものとなっております。

本書は、1997年度に当埋蔵文化センターが実施しました発掘調査及び試掘調査の概要と、遺跡調査発表会等の事業内容を報告するものであります。今年度は、17遺跡の発掘調査と9件の事業にかかる試掘調査を行いました。この中で、山梨県指定史跡甲府城跡では大型建築物に使われたとみられる大型の円形飾り瓦（違い鷹の羽紋）及び浅野時代の金箔飾り瓦（鬼桐紋）が出土したほか、築城期に作られたとみられる石段や陰陽道の儀式に關係したとみられる線刻画がみつかるなど新発見が相次ぎました。また、大月市梁川町の塩瀬下原遺跡からは縄文時代中期の壇堀52基が検出されたほか、長さ80cm・直径26cmにもよぶ縄文時代後期の大型石棒が出土し、祭祀性の強い遺跡として注目されました。御坂町の桂野遺跡では関西系の土器だけが残された縄文時代前期の住居跡が検出され、塩山市の下西畠遺跡では東海地方に特徴的な形態を持った古墳時代前期の方形周溝墓が出土し、当時の人々の活発な交流を伺うことができる事例となりました。また、甲府市の富士見一丁目遺跡からは弥生の水田の初期形態である「小区画水田」が盆地底部で初めて確認され、境川村の諏訪尻遺跡では直径13mを超える県内最大級の古墳時代の堅穴住居跡が出土するなど、古代甲斐国の社会の様子を知る上で貴重な資料が確認されております。

また、県の海外技術研修員受け入れ事業に基づいて、中国四川省文物考古研究所考古隊長王魯茂氏を7月1日から3月中旬までの約9ヶ月間受け入れております。

ここ数年、県内においては年間200件近い発掘調査が行われております。開発事業は依然としてその数を増加させ止まるところを知りません。このような状況の中で得られた貴重な資料と引き替えに、多くの遺跡が失われていくことを余儀なくされております。祖先の残した文化遺産の一つである遺跡を可能な限り未來につなげていくのが私たちの責務であると確信しております。これらのためにも、本書を有効にご利用していただき、埋蔵文化財の保存保護をはじめ、啓蒙普及活動に一層のご協力とご理解をお願いいたします。

1998年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚初重

目 次

I	1997年度の事業概要	
1	発掘調査	1
2	整理調査	1
3	発掘調査報告書	2
4	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	3
5	調査研究課課内研究グループ	8
6	遺跡調査発表会	9
7	「山梨の遺跡展'97」	10
8	第9回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	10
9	調査研究課課内研修	11
10	寄贈・購入図書	12
11	海外研修生受人事業	12
II	各遺跡の発掘調査概要	
1	甲ツ原遺跡	13
2	大林上・大林遺跡	15
3	米山遺跡	18
4	横針遺跡	19
5	石橋北尾敷遺跡	21
6	八山畠遺跡	22
7	富士見一丁目遺跡	23
8	甲府城跡（県指定史跡）	26
9	伊保水遺跡	29
10	下西畠遺跡	31
11	石和高校周辺遺跡	33
12	桂野遺跡（第2次調査）	35
13	諏訪尻遺跡	37
14	人月遺跡（第7次調査：大月バイパス本線部分）	39
15	塙瀬下原遺跡	41
16	南大浜遺跡	43
17	長峰砦遺跡	45
18	八ヶ岳東南麓遺跡群ほか分布調査	46
III	県内の概況	
	山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移（グラフ）・1997年度発掘調査一覧	52



1997年度発掘調査 位置図

1. 本書は、1997年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2. 本書の編集は萩原孝一、田口明子がおこなった。
3. 今年度の発掘調査一覧表及び資料の記載は3月末日現在で集計したものである。
4. 第II章各遺跡の発掘調査概要の発掘調査面積の（　）内は調査対象面積である。
5. 左記の地図は1997年度発掘調査遺跡の位置図である。なお地図中の番号は右ページの【1発掘調査】の表に対応している。

職 員 組 織

所長	大塚 初重
次長	藤田 修
総務課課長	藤田 修
埋蔵文化財指導幹	森 和敏
調査研究第1課課長	森 和敏
調査研究第2課課長	田代 孝

総務課	
副主査	一瀬 好史
主事	矢崎 寛
主事	中村 紀子
文書事務員	有泉 百合恵
業務員	久保川 一三

調査研究第1課	
調査第一担当	副主幹・文化財主事 坂本 美夫 主任・文化財主事 熊谷 栄二 文化財主事 小林 孝子 文化財主事 米山 真 文化財主事 市川 恵子
調査第二担当	主査・文化財主事 八巻 輿志夫 主任・文化財主事 高野 玄明 主任・文化財主事 雨宮 芳夫 主任・文化財主事 深沢 容子 文化財主事 田口 明子
調査第三担当	副主査・文化財主事 保坂 康夫 主任・文化財主事 山本 茂樹 主任・文化財主事 吉岡 弘樹 主任・文化財主事 川手 昌英 文化財主事 萩原 孝一 非常勤嘱託 渡辺 泰彦

調査研究第2課	
調査第四担当	副主幹・文化財主事 新津 健 主査・文化財主事 小林 広和 主任・文化財主事 村石 真澄 主任・文化財主事 清水 裕司 文化財主事 小林 健二 非常勤嘱託 依田 幸浩
調査第五担当	主査・文化財主事 米田 明訓 主査・文化財主事 保坂 一英 主任・文化財主事 三田村 美莎 主任・文化財主事 保坂 和博 文化財主事 野代 幸和
調査第六担当	主査・文化財主事 長沢 宏昌 主任・文化財主事 小林 公治 主任・文化財主事 堀田 哲 主任・文化財主事 伊藤 伸一 文化財主事 笠原 みゆき 文化財主事 長田 雅巳

I 1997年度の事業概要

1. 発掘調査

今年度は17遺跡の発掘調査と9事業にかかる試掘調査を行った。調査の原因は、道路建設10、建物建設4、公園整備1、グランド拡張整備1、分譲地造成1となる。調査は、4月中旬から3月下旬まで行われ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要は、第II章で述べることとする。

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	甲ツ原遺跡	15	塩瀬下原遺跡
2	大林上遺跡	16	南大浜遺跡
3	米山遺跡	17	長峰砦遺跡
4	横針遺跡	18	八ヶ岳東南麓遺跡群ほか分布調査
5	石橋北屋敷遺跡	-1	中部横断自動車道試掘調査
6	八田畑遺跡	-2	石和町松葉畑南地区試掘調査
7	富士見一丁目遺跡	-3	西関東自動車道路関連遺跡分布調査
8	山梨県指定史跡甲府城跡	-4	中央道八ヶ岳パーキングエリア改良工事対象地域試掘調査
9	伊保水遺跡	-5	元免許地区試掘調査
10	下西畑遺跡	-6	大林遺跡範囲確認調査
11	石和高校周辺遺跡	-7	石和警察署移転予定地試掘調査
12	柱野遺跡	-8	宮久保地区試掘調査
13	諏訪尻遺跡	-9	御立原遺跡試掘調査
14	大月遺跡		

2. 整理調査

整理調査は、主に本年度調査した遺跡の基礎的整理調査と、基礎的な整理が済んだ遺跡の本格的整理調査とを、次のとおり行った。

(1) 基礎的整理調査

No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	石和高校周辺遺跡	5	大月遺跡
2	柱野遺跡	6	長峰砦跡
3	下西畑遺跡	7	南大浜遺跡
4	塩瀬下原遺跡	8	諏訪尻遺跡
		9	富士見一丁目遺跡

(2) 本格的整理調査

No.	遺跡名	事業名	発掘年度
1	米倉山B・清水遺跡	米倉山ニュータウン建設	1991~1994
2	岩清水遺跡	風土記の丘公園整備	1994
3	新居道下遺跡	中部横断自動車道建設	1990~1993
4	村前東A遺跡	中部横断自動車道建設	1990・1993~1996
5	宮沢中村遺跡	中部横断自動車道建設	1994・1996
6	四ツ塚古墳群	森と水のプロムナード整備	1995
7	矢坪遺跡・談合坂遺跡	中央自動車道改築	1995
8	御所遺跡	一般国道20号改築他	1995
9	鰐沢河岸跡	一般国道52号改築他	1996・1997
10	酒呑場遺跡	酪農試験場整備	1996
11	海道前C・横森遺跡他	一般国道141号改築他	1995~1997
12	甲ツ原遺跡	県道須玉・八ヶ岳公園線建設	1997
13	八田畠遺跡	小笠原団地建設	1997
14	山梨県指定史跡 甲府城跡	舞鶴城公園整備	1997
15	山梨県堤防・河岸遺跡分布調査	分布調査	1997
16	伊保水遺跡	県立産業技術短期大学校建設	1997

3. 発掘調査報告書

今年度は下記の報告書を刊行した。

No.	報告書名	No.	報告書名
第145集	甲ツ原遺跡IV	第150集	八田畠遺跡
第146集	諫訪前遺跡	第151集	矢坪遺跡 談合坂遺跡
第147集	新居道下遺跡	第152集	山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書
第148集	鰐沢河岸跡	第153集	東原遺跡
第149集	伊保水遺跡	第154集	御所遺跡
		第156集	山梨県指定史跡 甲府城跡Ⅳ

4. 収藏資料の貸し出し及び掲載許可

今年度は以下の収藏資料を貸し出した。

番号	申 請 者	利 用 目 的	貸し出し期間	申 請 物 件 名	
				申 請 者	物 件 名
1	富士市立 博物館	企画展 「富士川の舟運」に展示	4. 8 ~ 6. 8	斎沢河畔出土軽便器類24点・赤瓦1点・黒瓦1点・備幣62点・鏡3点・右轍1点・右轍1点・右轍1点・右轍1点・水滴2点・圓形繪の具器2点・蓋1点・蓋1点・キセル2点・目抜き1点・上蓋品20点・さいころ1点・番石2点・石けりの石3点・おはじき6点	
2	奥松島縄文村 歴史資料館	「物語の印された土器・山梨県の昭和遺跡の縄文十器」 展に展示	4. 15 ~ 9. 5	一の沢西遺跡出土縄文十器14点・人面把手1点・ミニチュア上器3点・十輪円盤9点・土偶4点・耳飾り2点・土鏡1点・石器56点	
3	遠野市立 博物館	特別展「縄文の暮らしと精神文化」に展示	7. 15 ~ 9. 30	安佐寺遺跡出土上傾頭部2点・企生遺跡出土中や土器（レプリカ）1点・十輪耳飾り7点・十輪1点・海辺前C遺跡出土頸面把付十器1点・一つの浜岸遺跡出土縄文土器3点・甲ツ原遺跡出土縄文土器1点・水呑道跡出土縄文土器1点・周分遺跡出土縄文土器1点・北城遺跡出土縄文土器1点・上の平遺跡出土縄文土器1点・ト野原遺跡出土縄文土器2点	
4	文化庁 土器館	海外展「日本の原始美術—縄文土器—」マレーシア国立博物館に展示	9. 1 ~ 12. 26	宮の前遺跡出土縄文土器1点・安達寺遺跡出土縄文土器1点・般舟遺跡出土縄文土器1点・一の沢西遺跡出土縄文土器7点・般舟遺跡出土縄文土器（重要文化財）1点・金生遺跡出土中空土偶1点	
5	大宮市立 博物館	特別展「縄文人の顔～土偶・土面から見た系縄～」に展示	9. 20 ~ 12. 10	一の沢西遺跡出土上傾2点	
6	春日局所 郷土資料館	企画展「甲斐國の六代寺院」 に展示	9. 24 ~ 12. 7	川口丸窯址出土鰐尾1点・軒丸瓦6点・丸瓦1点・半瓦1点・長谷寺跡出土上平瓦1点・丸瓦1点・土蜘蛛瓦1点・大輪瓦1点・軒丸瓦1点・墨苔土器1点・樂田小玉1点	
7	駿河堂遺跡 博物館	特別展「満巣の神種～土器に あふれる縄文のエネルギー～」 に展示	9. 10 ~ 12. 6	花鳥山遺跡出土深鉢形土器1点・上の平遺跡出土深鉢形土器1点・天神遺跡出土深鉢形土器3点・大輪瓦1点・中谷遺跡出土軒瓦1点・一つの浜岸遺跡出土水呑文把付十器1点・上の平遺跡出土水呑文把付十器1点・川又板上遺跡出土土器1点・金生遺跡出土土器2点・金生遺跡出土土器1点・土偶耳飾り2点・上野原遺跡出土三角土製品1点	
8	燃草村 耳飾り館	企画展「土偶の表い」 に展示	10. 2 ~ 12. 2	金生遺跡出土十隅7点・耳飾り7点	

今年度は以下の写真等の掲載許可出請があり許可した。

11	6.5	文化庁	海外展「日本の始祖前一編文」上器 —」展示開幕式等に掲載	宮の前遺跡出土縄文土器1点・遺物出土状況1点、安堵寺遺跡出土縄文土器1点、上野原遺跡出土縄文土器1点、一の川西遺跡出土縄文土器7点・有孔鰐付土器1点・遺物出土状況2点・先細風鏡1点・截林遺跡出土縄文土器1点・金生遺跡出土空十飼1点
12	6.12	佐新人物往来社	「川郷都形研究会号	野原遺跡出土縄文土器1点・有孔鰐付土器1点・遺物出土状況2点・先細風鏡1点・截林遺跡出土縄文土器1点・金生遺跡出土空十飼1点
13	6.13	八戸市立博物館	特別展「紀文の歴」土偶・土面から見た新石紀文—展示開幕式に掲載	「野原遺跡出土縄文土器2点
14	6.18	山梨口日新聞社出版局	「サやまなし」1997年7月号に掲載	宮の前遺跡出土縄文土器1点
15	6.23	朝日新聞社企画部	別冊歴史叢書「日本の城と天下」	甲府城跡出土人形付金輪丸1点・八守台現况1点
16	6.28	鮫町市上郷多竹博物館	平成9年度特別展「伊那谷の馬・料」	野物館展示室内金牛遺跡配石復元1点・安遠寺遺跡出土有孔鰐付土器1点・甲フ原遺跡出土上石皿・磨石1点
17	7.1	株日本交通公社	「ガイドブック ひどり歩きの伊豆・箱根・富士」	野物館外観1点
18	7.7	大洋出版社	「葬送の原点」に掲載	野物館展示室内金牛遺跡配石復元1点・安遠寺遺跡出土有孔鰐付土器1点・甲フ原遺跡出土上石皿・磨石1点
19	7.9	磯日 基	「誰でもわかる日本の古代史」に掲載	「野原遺跡出土縄文土器1点・浅鉢形土器1点・十隅1点・十隅1点・有孔鰐付土器1点」
20	7.10	遠野市立博物館	特別展「紀文の暮らしと精神文化」	「金牛遺跡出土中土玉陶1点・海道前C遺跡出土十隅面把手付十隅1点・甲フ原遺跡出土十隅面把手付土器1点」
21	7.23	山梨日日新聞社出版局	展示開録に掲載	「野原遺跡出土十隅1点・作業風景1点・底盤遺跡出土十隅1点・方形闕溝臺1点」
22	7.23	深井一智著	「歴史教材「新編日本史図表」に掲載	「金牛遺跡配石復元1点」
23	7.30	春日局町教育委員会	平成9年度春日局町算額上銘金両展	「大般寺鬼頭彌勒頭金1点・大般寺鬼頭彌勒頭金1点・板垣遺跡先細彌勒瓦風景1点・瓦山土状況1点」
24	7.30	NTTマルチメディア	「平安の古代寺院」に販促	「上野原遺跡出土縄文土器1点・先細状況1点・上野原遺跡出土縄文土器1点」
25	8.9	後藤 附一	「ビジネス開拓部」に掲載	「アドウ酒に変わらるべき」
26	8.19	奈良縣立 奈良堂遺跡博物館	「歴史鬼頭金5巻原始絵面」に掲載	「一の川西遺跡出土十深形土器1点・大般寺鬼頭彌勒頭金1点・板垣鬼頭彌勒頭金1点・上野原遺跡出土三角状土製品1点・中谷遺跡出土土器1点・天神遺跡出土深形土器1点」
27	8.21	日経BP社	「日経アートブックス「食・花・酒」とやきもの」	「文のエネルギー—展示開催等に掲載」
28	8.22	トピック編集部	「日本考古学年報」第49号に掲載	「野原遺跡出土十深金1点・金環1点・金環1点・東山比延跡遺構1点・奈良区配置河1点・遺跡分布図1点」
29	9.5	日本考古学会	「日本考古学年報」第49号に掲載	「野原遺跡出土十深金1点・金環1点・金環1点・金環1点・大丸山古墳出土十品レプリカ1点、かんか
30	9.18	山梨日日新聞社出版局	「サ・やまなし」1997年10月号に掲載	「上の平遺跡遺構1点・奈良区配置河1点・遺跡分布図1点」

				点、十五所遺跡方形周溝豆餅1点、油刃遺跡1区全景1点・堅杵1点、人頭東刀保遺 跡1区第二面水跡と地割れ1点、1区地割れ断面1点・Ⅲ区地割れ断面1点・Ⅰ区第 二面港中の火山灰1点・Ⅰ区第三面港中の建築用材1点・Ⅳ区梯二面古墳邊石1点・ IV区出土埴彌輪1点・Ⅳ区十器主体部全景1点、龜甲樣古墳邊石1点・馬乘山1・ 唐松くちやん平塚全景1点、下長崎遺跡全景1点・1号溝1点・石室出土遺物1点・1号 住居1点・3号上坊遺跡1点・石清水遺跡1号出土金風呂1点・1号圓形周溝墓全風呂1点・1号圓形周 溝墓全景1点・人頭神遺跡5号住居1点・5号住居遺物出土状況1点・新原遺跡下遺跡45 号住居1点・45号住居遺物出土状況1点・環部遺跡人形1点・長谷寺開山院堂跡金風 呂1点・猿石石列遺跡1点・城下遺跡遺跡近1点・石橋遺跡1点・第三地区4号溝附近1点・ 1号住居1点・第1地点発見かげ1と鉄鍬1点・第三地区4号溝附近1点・篠田地点住居1点 甲ツ原遺跡出土深鉢土器1点・一つの汎用遺跡出土深鉢形十器1点・純文ヶ岳キーの作 り方写真4点・整穴式件厚の外觀写真1点・内部写真1点・復元寸幅写真10点・小版 題掛山土石石礫1点
45	2.2	㈱ベネッセコーポレ ーション	「チャレンジ3年生」(平成10年5月 号)に掲載	「選別解日本百科 日本の国宝」第85 統合版
46	2.5	朝日新聞社出版局	「選別解日本百科 日本の国宝」第85 統合版	「選別解日本百科 日本の国宝」第85 統合版
47	2.27	山梨県史編さん室	「山梨県史だより」15号に掲載のため め	天神遺跡住居址写真2点・住居址遺物出土状況2点・土塹静写真1点・土塹静写真1点・土塹 跡2点・花鳥山遺跡絵文土器1点・炭化物付着土器1点・鍋窯地遺跡焼成土住居焼成2 点・礫石住居址遺物出土状況1点・釜生遺跡住居址2点・石組2点・配石2点・土塼 1点・向河原遺跡水田址1点・甲ツ原遺跡縄文土器1点・酒呑遺跡住居址1点・上 の平遺跡方形周溝墓全1点・錦糸原古墳部人形出土状況1点・錦糸原古墳金風呂1点、 船荷塙古墳部人形出土状況1点・身洗尻遺跡人形出土状況1点、錦糸原古墳金風呂1点、 船荷塙古墳部人形出土状況1点
48	3.19	株式会社 武蔵堂		
49	3.25	明野村教育委員会		

5. 調査研究課課内研究グループ

本年度は5部会を設定し、以下のような内容で毎月末日ごとに自主研究を行った。

縄文部会 縄文部会では、これまで集成了した県内出土の縄文土器の時期ごとの分類・再編成を行った。現在中期初頭まで作業が進んでいる。この作業は草創期から晩期までの“縄文土器絵引き”を作成することを目的としており、そのために報告書ごとに縄文土器を分類しつつ集成了を試みたものである。集成了の方針としてはできる限り完形品を掲載することとしているが、県内の特徴として中期に資料が集中し、草創期・早期などは資料が少なく、現状での分類・再編成はなかなか困難であるが、とにかく山梨県内の流れを一日でわかるようなものをつくっていきたいと考えている。近いうちに、県内担当者に配布できるものを作上げる心づもりである。

古墳部会 当部会では昨年に引き続き、1990年に八代町教育委員会から刊行された「遺跡詳細分布調査報告書」をもとに、古墳に関するデータカードの作成を行っている。本年度は八代町の古墳に加えて、今年度発掘調査を行った境川村諒訪尻遺跡の古墳なども対象にデータの収集にあたった。天候に恵まれず、古墳の現状調査が滞る傾向にあるが、データを急速に蓄積し、いち早くカードが公開できるよう努力しなければならない。

中・近世部会 当部会は、一昨年度からの研究テーマである「山梨における中世土器の考古学的編年の確率」にむけて、作業を進めている。今年度は、地域差が著しいことを考慮し、県内を6地域に分けて各担当ごとに資料を収集し、編年一覧の骨組みを構えることを目的としてきた。資料収集として編年上重要な共伴する遺物として、常滑・灰釉陶器・志野などの陶磁器や内耳土器なども含めて行っている。現在、鎌倉時代の様相及び戦国時代後半の実態はつかめているものの、14~15世紀の資料の検討が今後の課題である。

実験考古学研究部会 遺構・遺物等の解釈について、「実際に製作するなどの方法によって解明すること」を目的に活動している本部会では今年度の研究課題として、「古代製鉄技術の復元」を選択した。具体的には先学の復元実験例などの検討を基に、自作の製鉄炉による鉄の製作実験を実施し、操業記録を行った。今年度は古代製鉄技術における精鍊段階に終止したため、今後は鍛冶作業～製品製造の工程について取り組んでいきたい。

考古教材研究部会 当部会は、センターに文化財主事として赴任した公立の中学校、及び高等学校の教員10名と専門の文化財主事1名で構成されている。今年度の研究活動として、月に一度の研究活動、学校現場（県内小・中・高等学校）向けの遺跡だよりの作成を行った。また、山梨大学附属中学校及び甲府市立東中学校からの要請により、中学校社会科の授業に当部会の文化財主事1名が参加し、チームティーチング形式の授業を行った。

6. 遺跡調査発表会

当センターでは、県内で実施された発掘調査の内容を一般県民に広く知っていただくため、山梨県考古学協会と共に年2回の遺跡調査発表会を実施している。例年のごとくスライドをmajiedaの口頭発表に加えて出土遺物や写真などの展示も行った。以下概要を述べる。

1997年度上半期遺跡調査発表会（11月1日（土）於：県立甲府第一高等学校 約100名参加）

1. 塩瀬下原遺跡 大月市梁川町塩瀬842-2外 [当センター：吉岡弘樹] 40ページ参照
2. 南大浜遺跡 北都留郡上野原町鶴川字日野道1060外 [当センター：笠原みゆき] 42ページ参照

3. 西原遺跡 東八代郡境川村小山字西原 [境川村教育委員会：野崎進]

縄文時代前期から中期の住居跡12軒・土坑等、弥生時代後期の住居跡5軒、方形周溝墓6基が発見された。また縄文時代の大形土器破片も出土している。

4. 牧洞寺古墳 山梨市上岩下1506-80外 [山梨市教育委員会：三澤達也]

直径16mの円墳で周溝等の外部施設は存在しないことを確認した。遺物は石室前庭部より須恵器片が出土した。

5. 塩川下河原堤防遺跡 蕨崎市中田町中条1830外 [塩川下河原堤防遺跡発掘調査団：畠大介]

近世から明治期にかけての堤防で、木枠や梯子土台等が良好な状態で出土するなど当時の工法が明らかにされた。

1997年度下半期遺跡調査発表会（3月14日（土）於：石和町立図書館 約120名参加）

1. 後呂遺跡 東八代郡中道町右左口字後呂3143外 [中道町教育委員会：林部光]

縄文時代中期の住居跡12軒、弥生時代後期末から古墳時代の住居跡6軒・溝状遺構5条、後期古墳1基等が発見された。

2. 石之坪遺跡 蕁崎市円野町上円井 [蕨崎市教育委員会：間間俊明]

縄文時代の住居跡約55軒・土坑100基以上が発見され、継続的に居住活動が行われたことが明らかになった。また平安時代の住居跡約30軒も確認された。

3. 源訪尻遺跡 東八代郡境川村藤堂字源訪尻3883外 [当センター：坂本美夫] 36ページ参照

縄文時代前期末の住居跡1軒、弥生時代後期末から古墳時代前期の住居跡24軒・方形周溝墓1基・円墳2基が発見された。円墳の周溝からは鉄剣が出土した。

4. 岩殿城跡 大月市賑岡町岩殿字西山152番地外 [大月市郷土資料館：杉本正文]

堅穴状遺構が発見され、瀬戸・祖母懐の茶壺など多数の良好な資料が集中して出土した。

5. 甲府城跡 甲府市丸の内1番地内 [当センター：宮里学] 25ページ参照

城内各地点からは門跡・建物跡・石垣等の遺構が確認され、遺物は金箔瓦を含む多量の瓦・土器類・鉄・石製品等が出土した。また線刻画なども発見された。

上半・下半期の発表会をとおして各発表者には、発表の際一般の人たちにも分かるように努めて頂いた。また上半期においては甲府市内の高等学校を会場とし、一般県民に加えて学生も参加できるよう努めた。

7. 山梨の遺跡展'97

本年度、当埋蔵文化財センターおよび市町村教育委員会が実施した発掘調査の出土資料やその成果を、いち早く一般に公開することを目的に、当センター主催で実施した。

開催は平成10年3月14日から4月5日まで県立考古博物館特別展示室で行い、入場は無料とした。展示内容は、①企画展示（「埋葬の変遷」）、②個別展示（埋蔵文化財センター展示）、③市町村展示、④パネル展示、⑤新聞パネル展示の5本を柱とした。①では、本年度当センターが行った発掘調査の中で「埋葬の変遷」に焦点を当て、伊保水・下西畠・甲ツ原・横針・桂野・石橋北・南大浜・石和高校周辺・塙瀬下原の9遺跡が発掘資料やパネルによる展示を行った。②では、本年度当センターが行った発掘調査の中で、①に関係しない個別の成果を、甲ツ原・桂野・諏訪尻・甲府城・大林上・石橋北層敷・塙瀬下原の7遺跡が展示を行った。③では、大泉村（甲ツ原遺跡）・韮崎市（石の坪遺跡）・樹形町（鎧物師屋遺跡）・一宮町（慈眼寺）の各教育委員会より発掘資料を借用し、展示を行った。④では、長峰柴・富士見一丁目の2遺跡を中心に、遺構写真や全体写真を用いて視覚に訴える展示を行った。⑤では、埋蔵文化財や発掘調査に関する本年度中の新聞記事をパネルを用いて紹介し、その重要性の理解を訴えた。

全体としては、18遺跡300点以上の資料を展示し、「埋葬の変遷」に焦点を当て、本年度の発掘成果を通して、埋蔵文化財への理解及び郷土への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

8. 第9回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

山梨県内の市町村教育委員会等に勤務する埋蔵文化財専門職員の技術・知識の向上を目的とする『市町村埋蔵文化財専門員研修会』を例年通りに開催した。

第9回を迎えた今回の研修会は平成10年1月27日に山梨県立考古博物館風土記の丘研修センターを会場に実施した。今回のテーマは「山梨周辺域における弥生時代中期の様相一土器を中心として」とし、講師には石川日出志先生（明治大学文学部教授）をお迎えした。

山梨県の弥生時代中期の様相は、過去に調査事例が少なく断片的に把握する程度の状態で、その様相が明らかとなりつつある隣接県とは対照的であった。しかし近年の開発行為に伴う発掘調査の増加は、本県の該期資料の蓄積を飛躍的に伸ばし、改めてその内容を検討する時期が到来したといえよう。このような状況下、該期の研究者である石川先生に県内で出土した新たな資料を実見していただき、周辺地域を考慮しながら本県の様相について講演していただいた。講演は最初に弥生文化の概要を、次に山梨周辺地域の様相を、最後の既出資料及び、当日実見していただいた最新資料を基に県内の様相についてお話ししていただいた。いずれも、先生の研究成果と最新の情報を採り入れたもので、内容の濃いものとなった。とくに、該期の土器については先生の編年に基づき、図版や実物を用いて詳細に解説していただき、中期初頭には甲府盆地南部曾根丘陵を中心に、多摩丘陵周辺まで分布する独自の土器群が存在すること、中期後葉、甲府盆地富士川水系と県東部桂川水系の遺跡で出土する土器は両者はもちろん、周辺地域とも異なる様相を呈していることを指摘し、その遺跡の性格にも言及され、本県の該期様相に新たな知見を数多く得ることができた。

9. 調査研究課課内研修

調査研究課では、職員の知識向上のために月1回程度の割合で課内研修会を開催している。本年その研修会の内容は下記の通りである。

日 時	講演・発表テーマ及び発表者	概 要
1 1997.4.30	発掘調査における衛生管理 石原準子氏 福利給与課 発掘調査における安全管理 八巻與志夫 当センター	発掘現場における救急措置、 及び安全で効率のよい作業の あり方を考える
2 1997.5.30	震災復興調査の様子2「そして神戸」 小林公治 当センター	支援職員として復興調査に参 加しての報告
3 1997.6.30	出土品の取り扱い方について 佐野隆氏 明野村教育委員会	文化庁主催の会議に参加して の報告
4 1997.8.29	インターネットの利用とは 村石真澄 当センター	山梨県の考古に関する情報公 開のあり方
5 1997.9.30	甲府盆地の古環境 各遺跡の花粉・珪藻分 析成果をふまえて パリノサヴェイ(株)考古学研究室	自然科学分析を活用した遺跡 発掘のあり方を考える
6 1997.11.28	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財発掘技術 者専門研修「信仰関連遺跡調査課程に参加 して」 高野玄明 当センター	考古学の立場から宗教儀礼等 の諸問題について考える
7 1998.1.29 ～30	初歩からの写真撮影 塙原明夫氏	完形土器・破片遺物の撮影技 術の講習
8 1998.2.27	四川省の発掘調査について 王魯茂氏 四川省文物考古研修所	中国の遺跡調査のあり方につ いて

10. 寄贈・購入図書

今年度の当機関で登録された図書数は、約3,600冊である。現在、38,000冊におよぶ蔵書数があり、来所される方々や職員に幅広く活用されている。ここで所蔵する本は、全国各県・市町村教育委員会から送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要や、博物館・資料館などの企画展・常設展示図録が主体である。この他、考古学・歴史の概説書や専門書、および民俗関係の書籍も多數所蔵している。また、今年度は、大塚初重所長より縄文時代を中心に文献・報告書約1,600冊を寄贈して頂いた。今後、幅広く活用できるよう整理していきたい。

11. 海外研修生受入事業

山梨県（主管国際課）が毎年実施している姉妹省等からの海外技術研修生受け入れ事業に基づいて、他の機関の協力をいただきて、中国四川省考古研究所考古隊長王魯茂氏（40才・男）を、7月1日から3月中旬までの約9ヶ月間受け入れた。

研修期間の当初に日本や山梨県の歴史・地理を教授した。発掘現場では、7月15日から9月5日まで境川村源訪尻遺跡で古墳時代集落の調査や地形・構造などの測量技術を中心に、9月8日から10月9日まで甲府城跡での調査や修復について、10月13日から12月11日まで甲府市富士見一丁目遺跡で江戸時代や弥生時代における水田の調査や測量技術について研修した。1月20日から1月30日までは帝京大学山梨文化財研究所で、鉄製・青銅製や木製などの出土品の保存処理技術と理論を修得した。その後、3月中旬までは甲府市単古整理室や埋蔵文化財センターで土器や石器の実測など発掘整理について研修した。この間奈良国立文化財研究所をはじめ国立歴史民俗博物館、長野県森将軍塚古墳など県内外の研究・展示施設や復元された遺跡を視察し、また京都・奈良・広島などへの研修旅行も行った。一方、中国長江中流に建設される三峡ダムのために水没する文化財の保護についての講演を埋蔵文化財センターでしていただきなど、文化交流使節的な役割をも果たして顶いた。日本の文化財保護や、近年長江流域における古代文明が注目されるようになった折、王氏の研修テーマ「日中考古学の比較研究」は、当センターにとっても有意義なものであった。

II 各遺跡の発掘調査概要

1. 甲ヶ原遺跡

所在地 北巨摩郡大泉村西井出字和田・字大林8853他

事業名 一般道須玉・八ヶ岳公園線建設

調査期間 1997年5月19日～8月28日（第7次調査）1998年3月3日～3月26日

調査面積 約610m²、約270m²（現道部分の調査）

担当者 山本茂樹・川手昌英・渡辺泰彦



甲ヶ原遺跡 位置図

甲ヶ原遺跡は、北巨摩郡大泉村に所在し、緩やかに傾斜した八ヶ岳南麓の尾根上に立地している。周辺は、八ヶ岳中腹あたりに湧水地から流れる甲川と油川に挟まれた舌状台地となっており、標高は790m前後を数える。

本遺跡は、一般県道須玉・八ヶ岳公園線の建設に伴い、1989年度に第1次発掘調査が行われ、本年度の第7次発掘調査をもって遺跡発掘調査は全て終了した。

周辺の遺跡には、天神C遺跡、寺所遺跡、御所遺跡、金生遺跡、姥神遺跡など縄文時代を主体とする遺跡が数多く存在している。

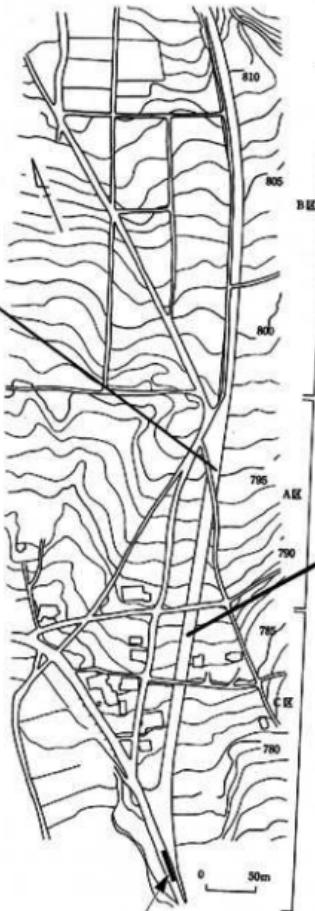
本年度の発掘調査対象地は畑および山林で、未買収地であったためこれまで調査ができなかった場所で、三地点にまたがっている。したがって南側地点から順にC区、A区、B区と区分けし、5m×5mグリッドで調査を行った。調査面積は約610m²である。

C区については、住居跡が6軒発見された。縄文時代の住居跡が5軒で、平安時代の住居跡が1軒である。縄文時代の住居跡の内訳は中期初頭3軒、中期の中頃1軒、中期後半1軒である。土坑は10数基確認され、時期は縄文時代がほとんどである。遺物については、土器片が豊富に出土し、特に55号住居跡からは、浅鉢等が発見された。完形個体は少ないが、復元可能な個体は数多いようである。A区については、縄文時代の住居跡が4軒発見された。その内訳は、中期の中頃2軒、中期後半1軒、時期不明のものが1軒である。また、今までの調査で確認されていた旧河道も発見された。遺物については、50号住居跡から、胴下半部と胴部半分を欠損する両耳壺の埋甕が見つかり、本遺跡の埋甕としては初めてである。またこの住居跡からは、入口部付近に石棒が出土し、頭部を南に向け、横倒しの状態で発見された。B区については、住居跡や土坑は見あたらなかったが、時期不明の溝が北から南へのびていることが明らかになった。また3月3～26日までの調査では、住居跡1軒・土坑1基が確認された。

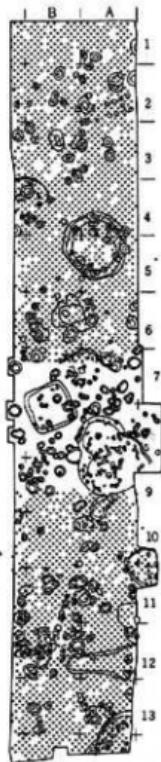


A区97年度 調査区
(第7次)

調査終了区



現道部分1998年3月調査



C区97年度 調査区
(第7次)

甲ヶ原遺跡 97年度（第7次）調査構造図

2. 大林上・大林遺跡

所在 地 ①大林上 北巨摩郡高根町箕輪
2604外
②大林 北巨摩郡高根町箕輪3151外

事 業 名 国道141号（箕輪バイパス）
建設工事

調査期間 1997年5月12日～8月12日

調査面積 ①1,700m² ②1,250m² (7,770m²)

担 当 者 田口明子・渡邊泰彦



大林上・大林遺跡 位置図

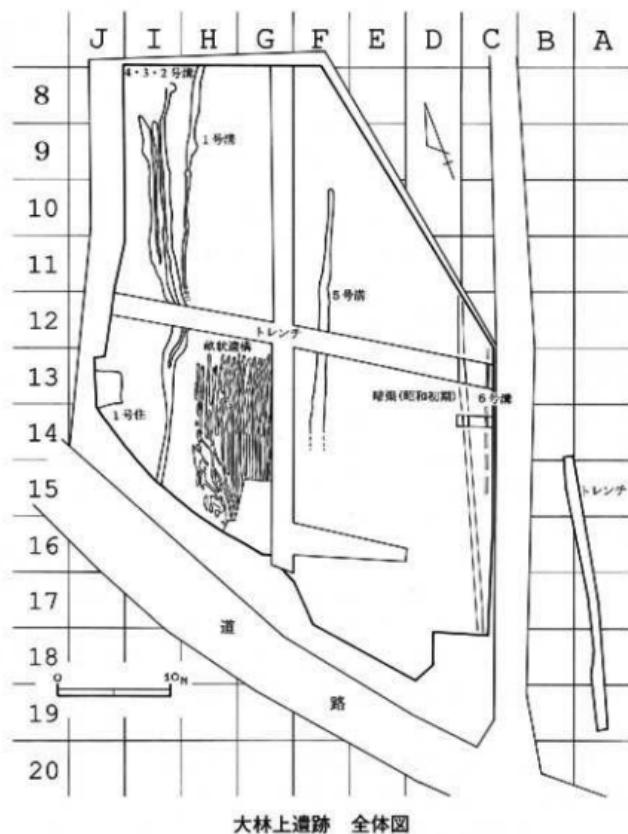
① 大林上遺跡は八ヶ岳東南麓の台地上、標高665m付近に立地し、すぐ東側を須玉川が南流する。1995年度に本遺跡の北に隣接する大林上遺跡の調査が行われ、平安時代堅穴住居跡5軒、掘立柱建物跡数棟、土坑100余基、溝跡2条が確認された。そして、本調査区内の北側部分の試掘調査も行われ、2本のトレンチから古墳時代の土師器片少量と黒曜石の剥片1点が出土した。関連する遺構は確認されなかったが、いずれの土器も磨滅がほとんど見られず、またすでに調査された遺跡の南に隣接することから本調査されることとなった。

調査区の原地形は北から南へ緩やかに傾斜している。遺構確認面及び遺物包含層は地表から30～90cm下の黒色土層である。調査の結果、平安時代の堅穴住居跡1軒、溝跡6条、焼土跡2基、畝状遺構、昭和の初めに掘られた暗渠1条が確認された。出土遺物は縄文、古墳、平安時代と近世の土器片、陶磁器片が大多数を占め、石器が少量混じる。近世の遺物の多くが搅乱層からの出土であるのに対し、その他のものは1～5号溝の周辺に集中する。しかも出土した遺物は磨滅していることから、そのほとんどが流されてきたものと考えられる。

1号住居跡は西側が調査区外に延びるが、南北約300cmで方形のプランをもつ。カマドは東壁のほぼ中央に構築されており、支脚の石が立ったままの状態で出土した。壁は搅乱によって削られており遺存状態は悪いが、土層の観察から20cm以上あったことが窺える。遺物は床面から灰釉陶磁碗、内面黒色土器壺・皿、土師器壺の4点が出土した。また住居の北東コーナーでは、より凹凸の少ない面を上面とする十数個の石が東西約100cm、南北約70cmの範囲に確認された。これらの石の下には長径130cm×短径85cm、深さ約50cmの土坑が確認されたが、遺物の出土はなかった。

溝は原地形の傾斜に従い、全てが南北方向に走る。1～5号溝には砂の堆積が認められることから水の流れのあったことが考えられ、どれもが黒色土層を掘り抜くことはない。しかし、2～4号溝が合流するI-13地区以南の溝と6号溝はローム層まで掘り込まれ、この両者が畝状遺構を挟んでいることから、根切り溝と判断した。畝状遺構の東側半分は搅乱のため検出できなかった。これら根切り溝と畝状遺構は中世以降のものと考えられる。

② 全長約600mの道路用地内に試掘トレンチを44本設定し、遺構・遺物が確認された場合には拡張して調査を行った。その結果、縄文時代中期及び近世を中心とした遺物が出土したほか、7本のトレンチから溝状遺構10条と土坑9基が確認された。しかし遺物を伴った遺構は、炭化材と釘のような鉄片が出土した42トレンチの1号土坑以外になく、また遺物のほとんどが苦練りと呼ばれる、田を造成する際につき固められた粘土層からの出土であった。これらの結果と今回の調査範囲が傾斜地を削平した土地であることを考え併せると、これ以上の調査の必要はないとの判断される。





大林上遺跡 1号住居跡（西から）



大林上遺跡 調査風景



大林上遺跡 1～4号溝（北から）



大林上遺跡 欽状遺構（南から）



大林遺跡 42トレンチ（ベルト右側中央が1号土坑）



大林遺跡 調査風景

3. 米山遺跡

所在地 北巨摩郡長坂町大八田字米山6811-248外

事業名 中央自動車道八ヶ岳パーキングエリア改築工事（下り線）

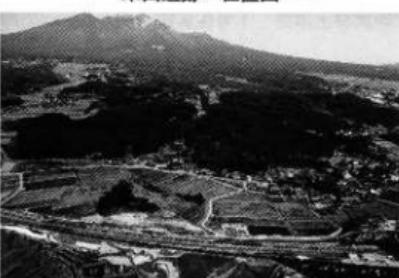
調査期間 1997年10月13日～12月25日

調査面積 1,000m²

担当者 村石真澄・清水裕司



米山遺跡 位置図



米山遺跡と八ヶ岳 遠景



米山遺跡と横針集落 遠景



調査風景

4. 横針 遺跡

所在地 北巨摩郡長坂町白井沢字横針1751-1外
事業名 中央自動車道八ヶ岳パーキングエリア
改築工事（上り線）
調査期間 1997年8月18日～10月31日
調査面積 1,000m²
担当者 村石眞澄・清水裕司



横針遺跡 位置図

横針遺跡は、八ヶ岳の裾野の南斜面にいくつのかの小さな丘や谷頭状に発達した地形の標高約800m付近に位置する。地元では、通称「中山」という小規模な独立丘陵上の南東斜面に立地している。

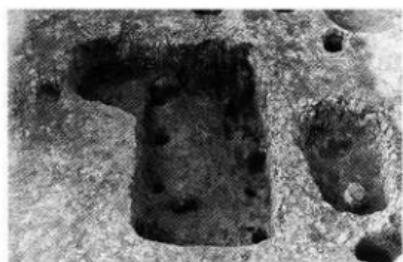
調査の結果、鎌倉～室町～戦国時代の地下式土坑9基、集石遺構2基、集石を持つ土坑7基、土坑・ピットなど約900基を発見することができた。この中でも注目すべきものをいくつか述べていきたい。

まずはSX3地下式土坑である。直徑約2.5mのほぼ円形で、深さは最深部で約1.6mである。覆土はローム地山からなる崩壊した天井部の間に黒色土層などを混じえるものであった。また、この土坑からは青磁片1点と北宋銭（天聖元寶：初鑄1023年）1枚、土師器数点が出土しているが、天井部の崩壊に伴って流入した可能性が高い。

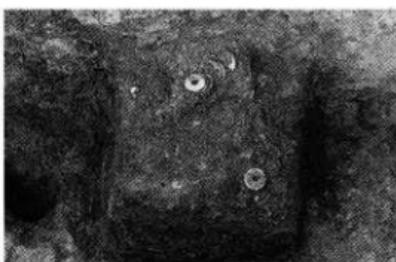
次はSP110土坑であり、これは中世の墓であると思われる。平面形は長方形でおよそ長軸2.3m、短軸1.2mで壁際に直径約10cmの1対計8個の小ピットが並んでいた。また遺物としてはカワラケ1点、唐銭（開元通寶：初鑄960年）、北宋銭（元豈通寶：初鑄1078年、聖宋元寶：初鑄1101年）などの古錢32枚が出土した。覆土はロームブロック（φ10mm大）混じりの暗灰黄色土であり、人為的に埋められたと判断した。他の長方形または梢円形など主軸の認められる土坑はそのほとんどは北西軸もしくは北東軸であった。

この他にもSP106土坑内の石は中心を取り廻すように丁寧に置かれていた。この土坑からはクギと思われる鉄製品が1点出土した。またSP62土坑からは、北宋銭3枚（天聖元寶：初鑄1023年、皇宋通寶：初鑄1038年、政和通寶：初鑄1111年）が出土した。これは埋葬に関わっていると思われる。さらにSX1遺構は一辺が約3.5mのほぼ正方形をしたものであったが、土層は暗灰黄色土が下層にあり、その上に細砾混じり褐色粘土ブロック（φ30mm大）の人為的埋め戻しとも考えられる堆積で覆われていた。天井部と考えられる堆積は確認できなかった。この遺構からは、聖宋元寶が1枚出土しただけであった。

本遺跡の地下式土坑は平面形が近隣の小和田館跡や金生遺跡に見られるような方形でなく、大部分が円形で、また入口部が本体から独立しておらず、形態的に大きな差異があることが特徴的である。



SP110 土坑



SP110 土坑 古銭出土状態



SP106 土坑



調査風景



横針遺跡 全景（東方から）

いしづしまたやし 5. 石橋北屋敷遺跡

所在地 中巨摩郡八田村野牛島字石橋

事業名 一般国道52号改築工事

中部横断自動車道建設工事

調査期間 1997年10月28日～1998年1月30日

担当者 新津 健・崎田 哲・依田幸浩

調査面積 3,000m²

本遺跡は、御動使川扇状地北端の標高328mを測る緩傾斜面上に位置する。北側200mには現御動使川が流れ、その北側には竜岡台地がある。近辺には赤山遺跡（縄文）・大塚遺跡（古墳～平安）が存し、遺跡の宝庫でもある。今回の調査区域周辺には古く野牛島の集落があったとされ、特に地元では「北屋敷」と呼ばれている。現在に地形から、堀跡と考えられる場所が確認でき、また農地として利用されている区画の中に不自然な「鉤の手」も見受けられる。

御動使川は戦国大名武田信玄の治水事業が行われたともいわれていることから、一帯の水利権に深く関与した権力層の屋敷及びそれを取り巻く集落が確認できるのではないかと期待した。

今年度の調査では、村道47号線西側の約3,000m²にわたって、地表面下約1mの層から遺構・遺物が検出された。内訳として区画溝3、道路側溝と思われる溝2、人骨3、古銭20、住居跡4、井戸1と、その他に土坑群、土器、石臼等がある。土器については非常に薄い一層の中に縄文晩期から戦国期に到るものが、また住居についても平安時代のものが確認されたが、区画溝と溝底から検出された内耳土器や石臼、人骨及びこれに付随して出土した銭は全て戦国期のものと考えられている。

検出された区画溝は、現在の農地の区画と整合性が認められるが、このことは現在の区画が中世以来の土地利用を踏襲していることを示しているものとして興味深い。

来年度以降、今回の調査区域の西側を更に調査するが、上述の堀跡と思われる地形や不自然な「鉤の手」は、来年度の調査予定区域に含まれるため、今後にかかる期待は大きい。



石橋北屋敷遺跡 位置図



石橋北屋敷遺跡全景



2号人骨検出状況

はったばた 6. 八田畠遺跡

所在地 中巨摩郡樹形町小笠原字八田畠1231-1

外

事業名 県営住宅樹形小笠原団地建設工事

調査期間 1997年5月6日～9月6日

調査面積 2,600m²

担当者 小林健二・市川恵子・清水裕司・依
田幸浩



八田畠遺跡 位置図

甲府盆地の西部、樹形山を水源とする市之瀬川（坪川）・滝沢川などの諸河川は、御勅使川

の形成する扇状地とともに複合扇状地を造っている。八田畠遺跡はこれら扇状地の扇尖部に位置し、標高は298m前後を測る。

調査の結果、弥生時代前期から後期にかけての遺物包含層と、時期不明の根石状の集石遺構3基が確認された。調査区中央部は疊層で覆われており、自然の流路が確認されたのみで弥生時代の遺構は発見されなかった。

包含層（地表下80cm前後）は調査区北側と南側に20～40cmの厚さで堆積しており、出土した土器片は調査区南東部分に比較的まとまって分布していた。磨滅しているものが多く、氾濫により流ってきたものであり、該期の集落については本遺跡の北西側の台地に存在するものと思われる。集石遺構については、自然石を円形に並べてあり3基のうち2基については南北に並ぶものの、残りの1基はズレている。また東西方向には確認できず、建物になるかどうかはわからない。時期についても断定は出来ないが、近代以降のものであろう。

本県では弥生時代中期の遺跡はまだ少なく、立地や集落構造など解明できない部分が多い。今回の調査では明確な遺構は認められず、遺物の出土点数も少なかったが、該期の遺跡の立地を考える上で一つのデータを提供したことになろう。



調査風景



集石遺構

ふじみいっちょの 7. 富士見一丁目遺跡

所在地 甲府市富士見一丁目1-1
事業名 県立中央病院建設
調査期間 1997年10月1日～12月25日
試掘調査 1998年2月2日～3月4日
調査面積 2,640m² (880m²×3面)
試掘面積 518m³ (6,000m³)
担当者 保坂一英・高野玄明・雨宮芳夫



富士見一丁目遺跡 位置図

金峰山を水源とし、甲府市街を南下する荒川左岸の自然堤防上の標高275m付近に本遺跡は立地する。本遺跡の対岸約0.5kmには近世の水田跡が検出された東河原遺跡や、同じく左岸一帯には弥生時代後期～平安時代の集落が確認されている音羽遺跡や桜田遺跡、後期古墳など、周辺には遺跡が濃密に分布している地域である。今回の調査は、県立中央病院改築事業に伴って先年度に試掘調査を行い、その結果、平安時代～中世の遺物が検出されたため、本調査に到った。今年度の調査は、病院内南側駐車場部分を行い、文化層が3面に及び確認されている。

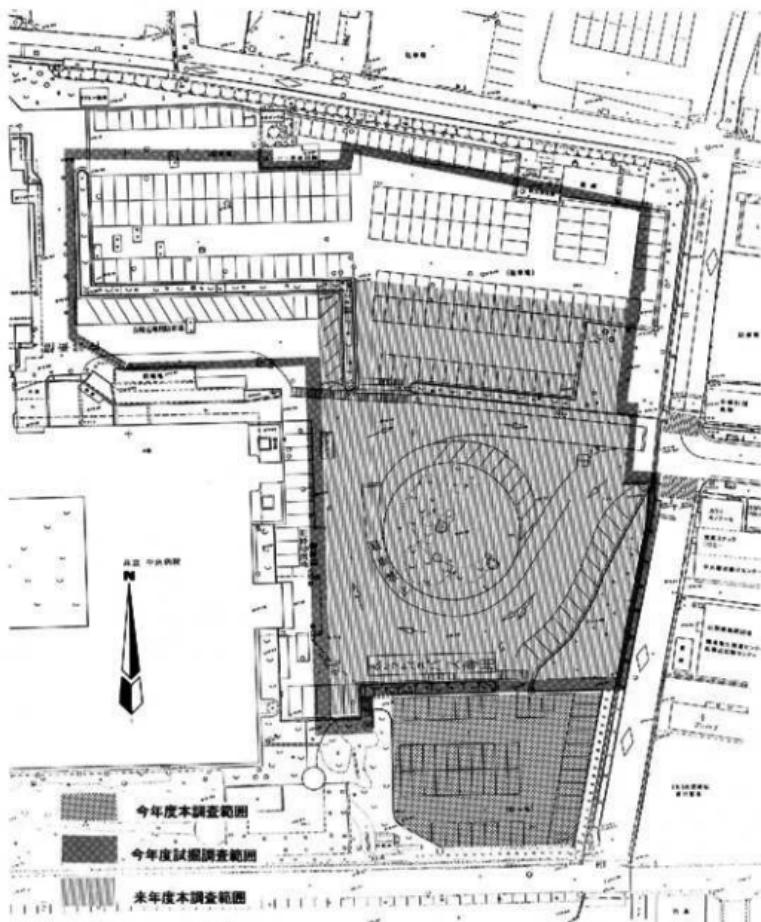
以下、確認された3面について概観してみたい。

第1面では、平行する等間隔の畝状の遺構が、調査区全体に2方向2形態のものが検出された。一つのタイプは、畝の間隔が狭いものと広いものとがみられ、方向も北西～南東方向と、北東～南西方向のものがみられる。一つのタイプは畝の高さ2～5cm、幅20～35cm、間隔10～25cm、もう一つのタイプは、畝の高さ15～20cm、幅30～65cm、間隔20～85cmを測る。出土遺物については、18C末の陶磁器片などが検出されている。

第2面においては、第1面と同様な形態・規模をもつものが検出されている。しかし、第1面ほど、明瞭な状況では検出されてはいない。これは、おそらく第2面の畝状遺構が荒川の氾濫によって削平されてしまい、新たに作り耕作し直したものが、第1面と考えられる。このことは、第1面と2面から出土している遺物からみても、ほとんど時期差は見られないことからも伺うことができる。

第3面については、調査区西側に北西～南東方向に落ち込みが見られ、この落ち込みと平行して畦畔が検出され、小区画の水田を構成している。落ち込みは10cmほど掘り込まれ、畝の高さは3cm、幅30～40cmで、17枚ほどが検出されている。水田の形態は、小型のもので長辺2.5m、短辺1.2m、面積3.0m²を呈し、大型のもので長辺4.7m、短辺1.5m、面積7.1m²を測る。水田面は、北～南に緩やかに傾斜している。各水田面には南北方向に水口が10～30cmほど見られる。しかし、水田面には遺物が全く見られないため、はっきりとした時代は不明であるが、水田面を構築している黒色土から、弥生時代後期～古墳時代前期と思われる台付壺の脚部が出土しており、水田の形態からみても該期の範疇に収まるものと考えられる。

今回の調査で、遺構が存在する3層から近世・近代の平行する等間隔の畝状遺構及び、弥生時代後期～古墳時代前期の水田跡が検出された。第1・2面の畝状遺構については、前述した本遺跡対岸の東河原遺跡から同様な形態の遺構が検出されている。この遺構については、花粉分析の結果、水田跡であると報告している。本遺跡も、分析結果をみなければ詳細なことは解らないが、おそらく同様な結果がでると思われる。第3面の水田跡については、全体の規模は不明であるものの、非常に小型の水田であることや、甲府盆地内において初めての検出例であり、水田形態の変遷を知る上で貴重な資料を提供するに到った。

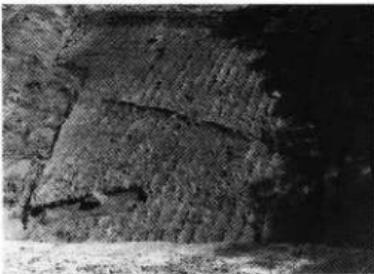


富士見一丁目遺跡 調査範囲 (1/1,000)

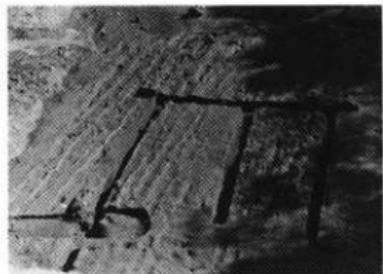
なお、来年度調査予定地内において試掘による範囲確認調査を行った。調査は、試掘トレントを重機による掘削をおこない、作業員により精査を行った。調査の結果、北側駐車場の大部分は地下埋設物や地表下140~230cmにおいて白色砂層に湧水など全く安定した遺構確認面は検出できなかった。しかし、北側駐車場南側から中央ロータリーにおいては、今年度本調査を行った南側駐車場と同様の安定した遺構確認面が3面検出されている。第1面は地表下60~130cm程度で確認され、これは南側駐車場の第1面と同一と思われる畝状の遺構の存在が確認されている。第2面は130~150cm程度で確認され、これも本調査区の第2面にある。また、150~170cm程度で確認されている黒褐色土については、南側駐車場で確認されている弥生時代~古墳時代前期の水田跡が検出されている土層と同一である。試掘調査の結果、約3,500m²×3面において良好な遺構確認面が検出されている。遺物も、陶磁器や弥生時代の土器片などが確認されていることから本調査の可能性が認められた。



調査風景



第1面 畝状遺構検出状況



第2面 畝状遺構検出状況



第3面 「小区画水田」検出状況

8. 甲府城跡（県指定史跡）

所在地 甲府市丸の内1丁目5番地内

事業名 舞鶴城公園整備

調査期間 1997年4月13日～1998年3月27日

調査面積 約8,200m²

担当者 八巻與志夫・深沢容子・宮里 学

平成2年度より始まった県指定史跡甲府城跡の発掘調査も、本年度で8年目を迎えた。以下に本年度の調査の概要を曲輪ごとに報告したいと思う。

初めに本丸の調査について述べる。昨年度からの継続で、中央部の露出している岩盤の間を掘り下げて調査を行ったところ、金箔や朱のついた鮫瓦や桐紋の飾り瓦などを含む築城期の瓦が多数出土した。同時に、割りかけの石材や石を切り出した跡なども確認したが、残された石に、山鳥、魚、星形、井桁などの模様が刻まれていることがわかった。調査していくうちに、このような線刻画は城内各所の石垣や石切り場で確認することができた。これらは、陰陽道や方位に關係する呪符ではないかと思われる。

また、本丸南側は現在調査を中断しているが、これまでのところ、江戸時代初期のものと思われる鬼瓦が1点単独で出土している。

本丸北石垣の改修工事に先立つ調査では、腰石垣東端にある石段の基底部で礎石を2個確認した。これは、本丸櫓本体のものではなく、付属する階段の覆屋か塀に關係するものだと思われる。腰石垣解体後の調査では、裏から栗石を押さえるための石垣（裏石垣）が検出された。暗渠の袖石がこの石垣から前面に突き出していることから、腰石垣が積まれるまでの暫定的な石垣であったと考えられる。暗渠は、平成6年度の調査により確認されていたものであるが、今回の工事により一部が解体されるため、記録を作成し復元の資料とした。

次に鉄門周辺の調査について述べたいと思う。昨年度末、鉄門西下の石垣を解体した際、裏盛土中から金箔瓦が出土した。今年度継続して調査したところ、地山と盛土の境から、浅野時代の瓦が石垣の裏込め石の代用にされている状態で集中して検出され、その中より、金箔飾り瓦（鬼桐紋）が出土した。

また、鉄門階段の施工に伴い、近代になって設置された石段を除去し調査したところ、本丸で金箔瓦を含む築城期の瓦を覆っている盛土と同様の土が厚さ40cm程度確認された。さらにその下部より、築城期に設置されたと思われる幅2.3m、長さ5mの安山岩の石段が検出された。復元工事では、検出された石段は埋設保存し、江戸時代中期の石段を復元した。

天守台下を東から南にめぐる天守曲輪では、南側の腰石垣の調査で、小石を積んだ石垣（裏石垣）が検出された。本丸の調査概要でもふれたが、表に高い石垣を積むまでの暫定的なもの



甲府城跡 位置図

ではないかと考えられる。

次に稻荷曲輪であるが、6月に曲輪北（事務所裏手）の調査に入った。絵図によれば焰硝蔵の建物があった場所であるため、関連する遺構の検出に努めた。曲輪北側の石垣天端を形成する土手の基底部から南側に幅3~4m、東西70mにわたって調査を行った。その結果、瓦窓が6基、西側で柱穴と土台状造構が検出された。10月に行った曲輪西の調査では、南北4.5m、東西5m以上の基礎範囲と、木構の痕跡、風化した凝灰岩からなる周堤状の高まりなどを確認した。北側で確認した遺構とあわせて焰硝蔵に関連するものと考えられる。現在南東に調査区を拡大して遺構の全面的な把握に努めている。

青少年科学センター北側から東側の腰石垣の天端及び裏盛土を中心とした調査では、裏盛土の土層観察から、数箇所を拠点に左右に盛土が行われたこと、石垣も同様に積まれたことが明らかになった。また、南側の腰石垣の裏から合坂の補石垣が検出され、根石付近で浅野時代の瓦が出土した。現在の石垣は江戸時代に積まれたものと考えられる。

科学センター南の飛行機跡の調査では、南側腰石垣のほぼ中央部下で、瓦や割り石が入った土坑が1基検出され、東側腰石垣の根石付近より瓦の破片が1点出土した。また、科学センター南及び南東の腰石垣解体後、裏盛土の調査を行ったところ南東腰石垣中から暗渠が検出された。

最後に数寄屋曲輪の調査について述べることにする。数寄屋曲輪は稻荷曲輪東南の一帯低い所に位置し、数寄屋曲輪と稻荷曲輪との間には「勝手門」があった。東向きで間口は約2mと推定される。5月に行った調査では、北側の腰石垣上で門の礎石を1個、東側で石段を3段確認し、柱穴を南北に1m間隔で3個検出した。また、金箔瓦（違ひ鷹の羽軒丸瓦）1点、瓦1点、銅釘などが出土した。

7月からの調査では、勝手門周辺を掘り下げ中に、土坑2基と焼土、炭化物の集中を平面的に確認した。土坑からは、かわらけ（16C~17C初頭）が出土し、1基からは獸骨も出土した。土坑を中心に周囲約5m四方にかわらけの破片が多数分布し、内耳十器も數片であるが出土している。焼土、炭化物の集中範囲は、概ね土坑と重なる傾向がみられた。これらは地鎮祭が行われた痕跡ではないかと推定される。

さらに同じ地点より、大型の円形飾り瓦（違ひ鷹の羽紋）が、石切り場の岩の間に入り込むように、1~2mの範囲にまとまって出土した。金箔は確認できなかったが、分析の結果、漆が塗られていることがわかり、金箔付きであった可能性が高まった。直径は36~37cmで、少なくとも3個体あると推定される。御殿など大型建築物の屋根を飾ったものではないかとみられる。

以上、今年度行った調査について概要を述べてきた。平成12年の整備事業終了まで、2年余りを残すのみとなり、発掘調査のほうも最終段階に入ろうとしている。来年度は、稻荷曲輪、本丸の調査の継続、JR身延線跡地の調査を予定している。



甲府城跡 平面図



本丸調査風景



勝手門柱穴検出状況



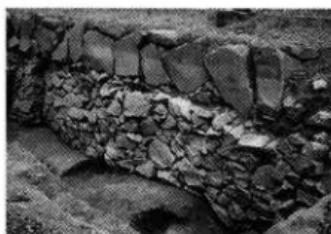
大型円形飾瓦（違い鷹の羽紋）出土状況



本丸北腰石垣 暗渠



鉄門旧石段



天守曲輪裏石垣

9. 伊保水遺跡

所在地 塩山市千野3568他

事業名 山梨県立産業技術短期大学校建設工事

調査期間 1997年5月6日～9月18日

調査面積 3,400m²

担当者 石神孝子・米山 真



伊保水遺跡 位置図

甲府盆地の東に連なる大菩薩嶺は、塩山市を南下する重川の水源になっている。本遺跡はこの重川によって形成された扇状地の右岸の北から南への緩斜面に立地しており、標高430m付近に所在する。遺跡の東側には古くから街道として栄えた青梅街道が通っており、付近は街道に伴って古くから集落が営まれていた。道沿いには江戸時代の石像物等が現在も多数分布している。

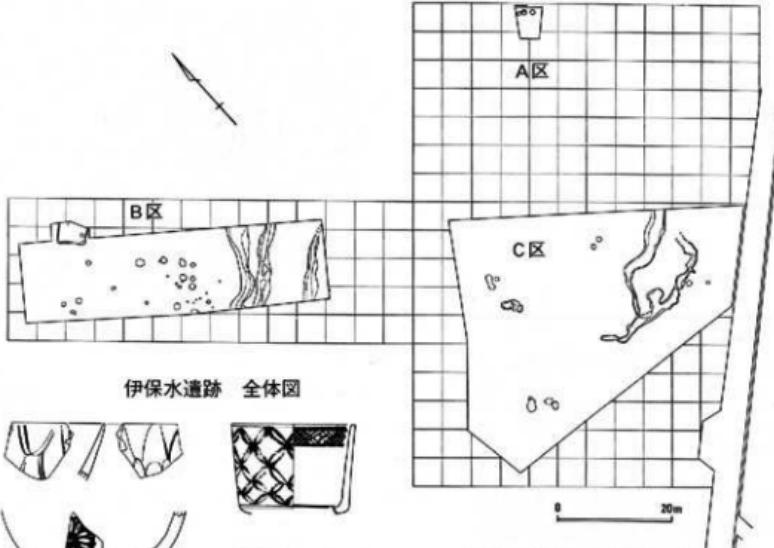
発掘調査の結果、縄文時代前期末の土坑10基、中世の住居跡1軒、土坑2基・溝2条、近世の墓坑19基、溝3条を確認した。

縄文時代前期末の土坑はいずれも少量の土器片を含む貧弱なものである。だが、本遺跡の北側には近接する時期である獅子之前遺跡が所在しており、両遺跡の関係は興味深い。

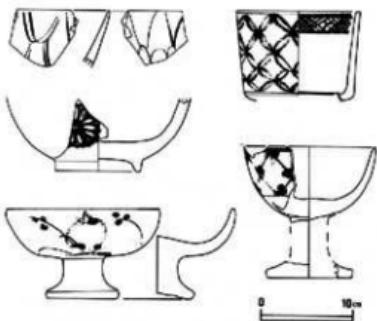
中世の住居跡は1軒が確認されている。掘り込みは浅く、南西コーナーには竪らしき造構が付設されていた。内耳土器の破片が多数出土したが、全体の様相を窺えるものではない。また、C区で確認した溝2条は後生の洪水により一気に埋没したものと思われる。溝内より内耳土器・擂鉢等の破片が出土した。

近世の墓坑はA区で4基、C区で15基を確認した。A区では地表面に、後世に整理されたような形で墓標3基と地蔵が立地しており、周辺からはそれらの供養に用いられたと思われる茶碗等の遺物も散在していた。キセル・陶磁器などの副葬品が出土したが、人骨については残存状況は悪かった。C区は後世の畑境の石垣の中に数点の墓石や台座等が混在していた。15基のうち12基は一ヵ所に集中して造営されており、墓域が設定されていたことを想定させるものである。遺物は人骨や歯をはじめとして六文銭・キセル・火打ち金・漆塗りの椀・仏飯具などの陶磁器類が出土した。さらに周囲の包含層からは擂鉢・茶碗など多数の陶磁器類が出土しており、それらはいずれも18世紀後半から19世紀初頭に位置づけられるものである。これらの陶磁器類の産地は瀬戸・美濃や肥前など遠隔地にも求められ、当時の流通経路を考える上でも興味深い。これらからこの土地でかつて屋敷が営まれ、墓坑群はそれに伴う屋敷墓であった可能性が推測される。

本遺跡は屋敷墓について考える上でも、また陶磁器類の産地と消費地の関係を知る上でも非常に興味深い遺跡であるといえよう。



伊保水遺跡 全体図



墓坑出土磁器



C区調査風景



4~15号墓坑



キセル出土状況

10. 下西畠遺跡

所在地 塩山市赤尾769他

事業名 国道411号（塩山東バイパス）建設工事

調査期間 1997年10月13日～12月22日

調査面積 2,500m²

担当者 石神孝子・米山 真

甲府盆地の東には大菩薩嶺をはじめとする山々が軒を連ねており、そこからは幾筋もの川が流れ出している。その一つである重川は大菩

薩嶺の東麓に源を発し、扇状地を形成しながら笛吹川に合流する。本遺跡はこのように重川が形成した扇状地の、標高392m付近に所在する。本遺跡は平成7年度の試掘調査により発見された。調査対象地の3,700m²のうち、今年度は2,500m²について調査を実施した。

調査区は北から南へ緩やかに傾斜し、東と西はそれぞれなだらかに下る微高地になって丘陵を形成しており、遺構はこの丘陵上に集中して分布する。

発掘調査の結果、縄文時代は前期末から中期中葉にかけての遺構が見られ、住居跡1軒、土坑6基を、古墳時代は前期の方形周溝墓4基、住居跡2軒を確認した。このうち縄文時代の住居跡は中期中葉に位置づけられる土器を埋甕炉として付設し、該期の遺物を多量に含む。また土坑は前期末の遺物を含むもの、中期初頭五領ヶ台式期の遺物が出土するものなどがあることを考えあわせて、継続的に集落が営まれた可能性があることを知ることができる。

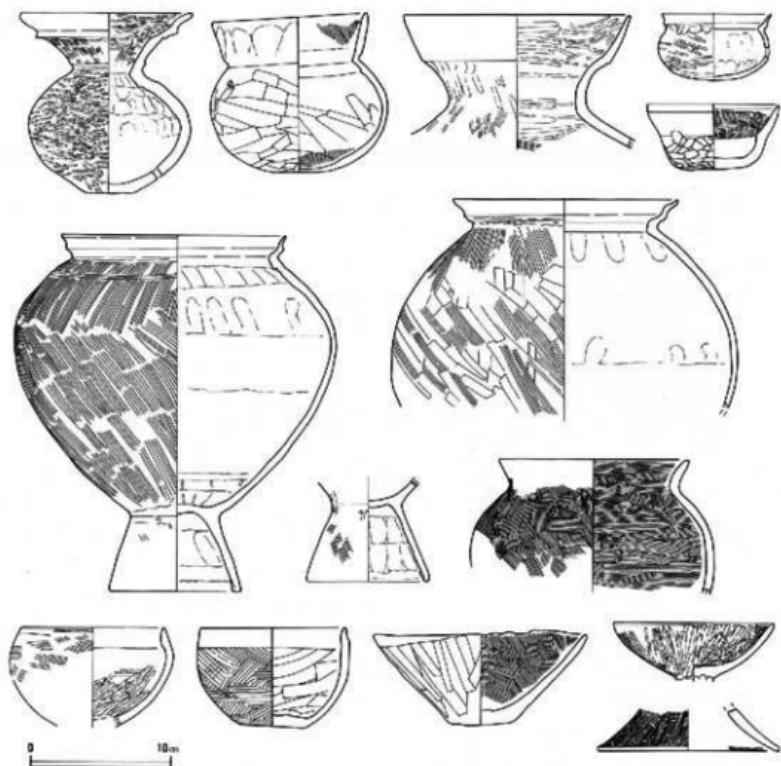
古墳時代前期の方形周溝墓はそれぞれ溝を共有することなく、単独で所在する。第1号方形周溝墓は周溝の南東コーナーに、第3・4号方形周溝墓は周溝の南側中央に、それぞれブリッジを有する。4基のうち2基はその半分が調査区外に伸びているため、完掘することはできなかった。いずれの方形周溝墓もブリッジ付近及び各周溝コーナー内より遺物が集中して出土した。第1号方形周溝墓ブリッジ付近の溝からは、胸部に櫛描波状文の巡る壺やひさご壺等が、第3号方形周溝墓からは底部を穿孔した二重口縁壺を始めとする壺類、S字状口縁台付壺等が出土した。第4号方形周溝墓からは横ハケの消滅したS字状口縁台付壺・壺・高杯・鉢などがまとまって出土し、共伴關係を知ることができる。出土遺物から4基とも古墳時代前期後半に築造されたものと考えられる。

方形周溝墓群は第1号方形周溝墓を北限とし、丘陵の落ち込みとともに墓域の南限となるようである。また丘陵の最も東側に第2号方形周溝墓が立地していることから、この方形周溝墓を東限と考えてよいと思われる。西側は調査区外にも丘陵が続いているため、墓域の広がりは定かではない。

本遺跡は甲府盆地最東に位置する方形周溝墓群として、同様の性格を持つ周辺の遺跡とともにその様相は非常に興味深いものである。



下西畠遺跡 位置図



第4号方形周溝墓 出土遺物

11. 石和高校周辺遺跡

所在地 東八代郡御坂町成田1951-2外
東八代郡石和町市部3外
事業名 県立石和高等学校グラウンド拡張整備
調査期間 1997年6月12日～8月25日
調査面積 514m² (1952.5m²)
担当者 保坂一英・高野玄明・雨宮芳夫



石和高校周辺遺跡 位置図

笛吹川氾濫原に接し、西北方向に傾斜する金川扇状地の末端部、標高274m付近に本遺跡は立地する。今年度も昨年度に引き続きグラウンド拡張に伴う発掘調査で、今回は主に高校敷地内が調査区にあたり、大きく4カ所に分かれる。調査は重機及びトレントを任意に設定して掘り下げを行い、遺構・遺物の有無を確認した。検出された箇所については、トレント周辺を拡張し、本調査を行うことにした。以下、各調査箇所ごとに概要を記す。

新弓道場建設部分（1～8号トレント）

本調査区は、現グラウンド南側の陸上競技場にあたり、重機を用いてトレント掘削を行った。調査箇所においては、グラウンド造成面下部には0.5～1.0m程で緑色砂層に湧水を伴うなど安定した文化層は検出されず、遺構・遺物は全く検出できなかった。

校舎東側道路拡幅部分（9～15号トレント）

用地買収が終了した調査区内に人力によるトレント掘削と精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。地表下0.7～0.9m程で砂礫層がみられ、平安時代～中世の遺物が微量であるが検出されたが、しかし、いずれも小破片で磨滅が激しく付近の遺跡からの流入によるものと考えられる。

テニスコート部分（16～24号トレント）

本調査区も、新弓道場部分と同様、重機を用いてトレント掘削を行った。0.85～0.95mで湧水を作ら砂礫層がみられ、安定した文化層は見られず、遺構・遺物の検出には到らなかった。

北側～西側グラウンド内道路拡幅部分（25～35トレント）

本調査区は、人力による掘削を行い、グラウンド造成面下部地表下約1.0mに安定した文化層（黒色土）が確認されている。黒色土上面及び黒色土中から古墳時代後期、平安時代、中・近世、近代の遺物が出土しているなか、遺構は33号トレントから近代の墓壙が1基が検出されている。この遺構については、現在のグラウンド造成にあたり墓地を移転した経緯があり、墓地移転にかかる遺構と考えられる。墓壙周辺には、副葬品と考えられる古銭（明治年間）、陶磁器片・小片の骨片などが検出されている。墓壙の規模については、長辺1.10m、短辺0.55mの長方形を呈し、確認面より深さ0.3mを測る。墓壙内部には、木製の棺桶の残骸、微

量の骨片、薬ビンなどが出上している。しかし、墓磯に関する詳細な埋葬の形態・性別・年齢等は全く不明である。これらは、墓地移転に際し回収しきれなかった副葬品と考えられる。

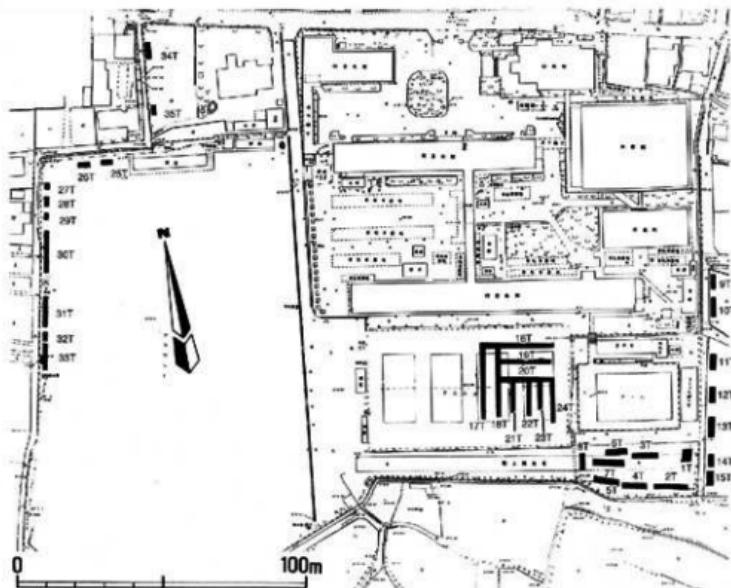
今回の調査によって、グラウンド西側において安定した黒色土が検出されている。黒色土中から、古墳時代後期、平安時代の遺物が検出されているものの、該期の遺構は今回の調査によって検出できなかつたが、周辺において該期の集落が存在する可能性が示唆される。



作業風景



33号トレンチ古銭出土状況



石和高校周辺遺跡 トレンチ配置図 ($S=1/2,000$)

12. 桂野遺跡（第2次調査）

所在地 東八代郡御坂町大字上黒駒字桂野大
道上1900外

事業名 国道137号線バイパス（御坂バイパス）
建設

調査期間 1997年9月1日～12月25日

調査面積 4,000m²

担当者 野代幸和・市川恵子

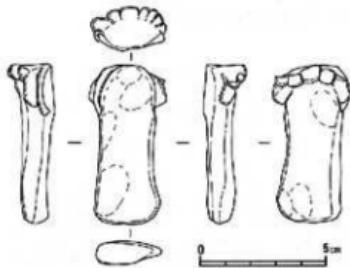


桂野遺跡 位置図

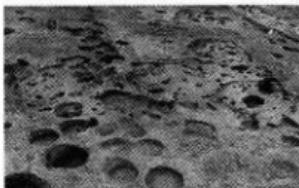
本遺跡は、甲府盆地の東部に連なる御坂山塊の北西緩斜面に位置する。金川の左岸にあたり、標高は530mを測る。今回は、昨年度行われた第1次調査区の北西側に隣接する約4,000m²について調査を実施した。出土した土器でみると、縄文時代前期後半諸縹b式から後期前半堀之内I式までのものがみられるが、遺構の主体となる時期は、前期末葉～中期初頭である。発見された遺構をみてみると、住居跡については前期末葉で2軒、中期初頭で16軒、土坑約300基、竪穴状遺構2基、単独で存在する埋葬5基があり、風倒木の痕跡もみられる。土坑は、集石を伴うものや、埋設土器を伴うもの、袋状を呈するものなど形態的なバリエーションに富んでおり、墓坑、貯蔵穴、陥し穴、調理用の施設などの用途が考えられるものが発見されている。特筆すべきものについて述べてみると、前期末葉に位置づけられる住居跡からは、関西系土器と中部高地系土器が共伴して出土している。この住居跡はその形態についても、しっかりと主柱穴が8本存在し、そのまわりに小型の補助柱穴が巡り、住居壁の立ち上がりも明確で、該期の一般的な住居跡の形態とは若干異なった様相を呈している。また、ほぼ同時期の関西系土器が出上している土坑もあり、この土坑からは髪の毛のみが表現された板状の土側も出土しており興味深い（右上図）。また後期堀之内I式の注口土器を伴った土坑もある。石器の内容については、石鎌、石匙、スクレーパーなどが高い割合を占め、石皿、磨石、凹石などは比較的少なく、採集よりは、狩猟に重きをおいた生活であったころを窺わせる。特殊な遺物としては、土偶、土製玦状耳飾、土製円盤、ペンドント形の土製品などがある。昨年度の調査成果と合わせて、桂野遺跡における縄文時代前期末葉～中期初頭の景観を復元してみると、自然地形の谷と谷に挟まれた場所に住居跡や土坑が散在している状況であったと考えられる。住居は狭い範囲にかたまる傾向がみられるが、改築された状況を示すものは無く、建て替えによる結果であると考えられる。炉の焼土は厚く残っているものもあり、ある程度の長期的な定住を示唆するものと考えられる。谷周辺には陥し穴が点在し、調理用と考えられる集石土坑も造られているなど、今回の調査では、緩斜面に展開するくらしを総合的にとらえることができる資料を得ることができた。継続の調査によって更に全体的な広がりがみえてくるものと思われる。来年度は引き続き今年度調査区の北西側の調査が行われる予定である。



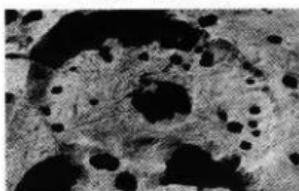
全体図（第2次調査）



縄文時代前期末葉段階と考えられる土偶



住居群 完掘状況



第7号住居跡（大歳山式期）



第7号住居跡 遺物出土状況



第5号住居跡 埋窯炉

すねじり 13. 諏訪尻遺跡

所在地 東八代郡境川村藤塙字諏訪尻3883外
事業名 県営分譲地造成事業
調査期間 1997年5月19日～11月21日
調査面積 約4,000m²
担当者 坂本美夫・熊谷栄二

諏訪尻遺跡は、甲府盆地の南東部、曾根丘陵上の緩斜面に位置し、3本のテレビ塔を有する坊ヶ峰の西約600mにあり、標高は約323～327mを測る。境川村は平地・山岳地と丘陵地に分けられこの丘陵地上には旧石器時代以降の遺跡が数多く存在している。藤塙地区も縄文～古墳時代の遺跡が多く、特に発掘調査によって須恵器窯跡が明らかにされ、他にも窯跡の存在が推定されるなど県内の須恵器生産地として注目される地域である。本遺跡は周知の遺跡として以前から遺跡の存在が確認されていた。その範囲は約20,000m²とされているが、今回の調査範囲はリニア実験線トンネル掘削による残土を用いて県営分譲地の造成事業が行われる範囲の内、5年前にすでに試掘調査が行われた結果をうけた約6,500m²を対象に調査した。調査の結果、土坑30数基、住居跡25軒、方形周溝墓1基（2号墳）、円墳2基（1・3号墳）、溝9条を確認した。土坑の内、1号住居内、1号墳の周溝内のものは獨立柱建物のものと考えられるが時代的にはいつのものか不明である。住居跡は、2号住居が唯一縄文時代のものである。墳は明確には確認できなかった。床も明確なところがなく、ローム層まで掘り下げ、ローム面がすり鉢状を呈しているのが確認できた。この縁辺部近くに柱穴が2個1対のような状況で検出され、建て直しの可能性を示す。土器も前期諸磯C式が出土している。弥生末～古墳時代前半（3世紀～5世紀初め）と思われるものが16軒検出しているが、（13号は2号墳に17～20号は1号墳の周溝に切られている。この5軒の調査については次年度へ繰り越した。）、これら全て梢円形を呈している。7号住居は調査区南端に位置し、全体を検出することはできないが、現状で長軸約10m、推定では約13mになると思われる（短軸は約9.9m）。この住居の中心を一辺約6.5mの方形の9号住居が切っているため、7号住居の床全体を見ることはできないが、床一面に焼土が検出でき、焼失住居である可能性が極めて強い。他の住居にこのような状態は見られず、住居の規模はこの時期のものとしては県内最大級ということもあり、この集落の首長の家屋だった可能性が十分にうかがえ、何らかの抗争によって失われたことも考えられる。24号住居は長軸6.55m、短軸5.95mであり、住居南側柱穴付近に柱の用材と思われる炭化材が出土した。古墳時代前半（5世紀前半）と思われる住居跡は8軒有りすべて方形である。

方形周溝墓は1辺15m規模のものである。主体部は残っていない。周溝全体を検出できなかったため、ブリッジの有無はわからない。時代的には、周溝から出土したS字口縁台付甕から



諏訪尻遺跡 位置図

4世紀から5世紀前半と考えられる。円墳は、3号墳は周溝の約1/4の存在を確認しているが、次年度へ繰り越しである。1号墳は径が約30m、その周開を巾約4m、深さ約1mの周溝がめぐっている。やはり主体部は残っていない。時代は5世紀前半頃と思われ、出土遺物は、小型の壺・長さ約30cmの劍などがみられる。これまで境川村では50基余りの円墳が確認されているが、その規模は直徑が約15m前後で、ほとんどは古墳時代後期のものである。5世紀代の古墳としては、5世紀中頃のものが確認されているが、5世紀前半の古墳は見つかっておらず、この地域における豪族層の隆盛、または隣接する中道町地域に大古墳群を築造、君臨した中道首長家の衰退を探る上で貴重な資料となると考えられる。



調査区 全景

14. 大月遺跡

(第7次調査: 大月バイパス本線部分)

所在地 大月市大月2丁目11-20外

事業名 国道20号(大月バイパス)建設

調査期間 1997年9月16日~1998年2月13日

調査面積 1,950m² (650m²×3面)

担当者 小林公治・長田雅巳



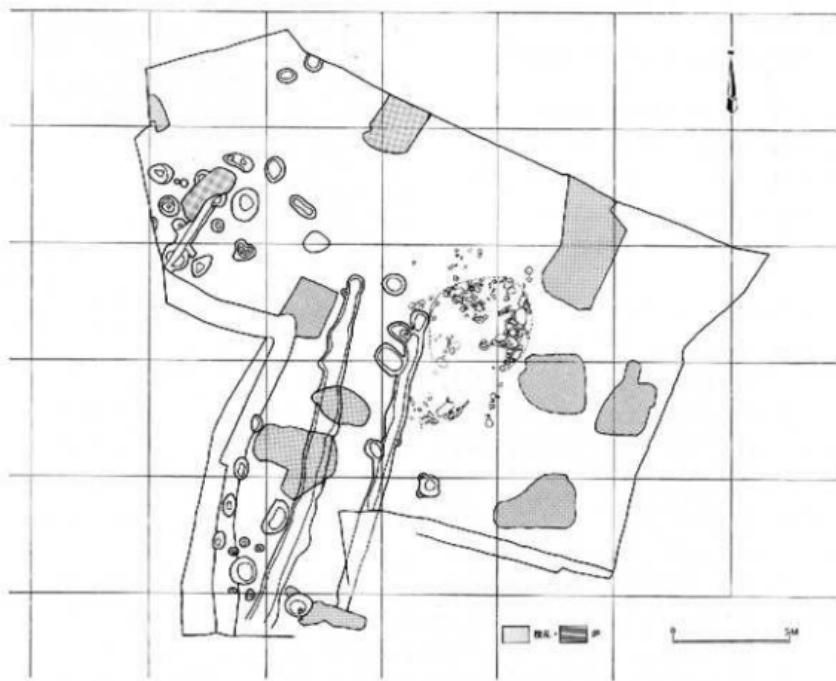
大月遺跡 位置図

大月遺跡は、桂川と笛子川との合流地点から南東およそ600m地点の段丘面上に位置し、県立都留高等学校の敷地およびその周辺一帯に広がっている縄文時代後期、奈良・平安時代、中世にかけての集落を中心とした複合遺跡である。昭和2年以來、10次にわたって発掘調査がおこなわれてきたが、今回の調査は大月バイパス本線部分の事前調査であり、1995(平成7)年に実施した第7次調査の継続として未調査部およそ2,000m²が今年度の調査となる。なお、今年度の調査をもって近年行われてきた大月遺跡発掘調査の区切りを迎える。

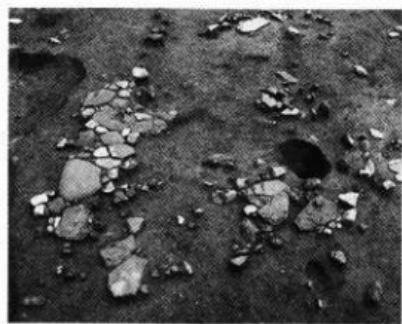
調査の結果、大きく3面で遺構が確認された。平安時代では土坑21基・ピット13基・掘立柱建物址1棟・溝3条が確認されているが、出土遺物がほとんど見られない。掘立柱建物址は、先年の調査で確認されているものの東側梁行にあたる部分である。

縄文時代の遺構では、後期の敷石住居址1軒・土坑12基・焼上址9基・ピット39基・配石遺構1カ所・集石遺構3基が検出された。敷石住居は周縁部を除き大きく攪乱により壊されているため、全体の形状等はっきりしたことは不明であるが、残存状況から円形に近い形のものと推測される。そして、住居のはば中心には、枕石を持ち直径80cmほどの炉が確認された。また、この住居に近接して、近隣の桂川および背後の山のものと考えられる大形礫から構成される配石遺構や、焼碟・非焼碟が多数交互に重なり合って構成されている集石遺構なども確認されている。この他、ローム上面から確認された隅丸長方形の土坑底面からはヒスイ製の玉が出土しており、墓磚であると考えができる。遺物は、縄文時代包含層の上位30cmほどが特に集中しており、多量の土器・石器類が山際を除くほぼ全面からかなりの密度で出土している。また、黒曜石の出土状況においては特定の場所から集中して出土している傾向も見られた。これらの多くは土器が後期堀之内式および称名寺期のもので、石器類は石皿や磨石・石斧・黒曜石の剥片等である。こうした遺物の出土状況や量から今回の調査地一帯が土器等の捨て場や黒曜石の加工場に関わる性格をもっていた可能性があろう。

今回の調査で1989(平成元)年の第5次調査以降行われてきた一連の調査が終了するわけだが、今後の整理・分析作業によって、遺跡内の土地利用区分の問題などが具体的に明らかになることが期待される。



主要遺構 概略図



散石住居跡



埋甕 検出状況

15. 塩瀬下原遺跡

所在地 大月市梁川町塩瀬842-2番地外
事業名 桂川流域下水道終末処理場建設
調査期間 1997年4月22日～12月25日
調査面積 4,800m²
担当者 吉岡弘樹・萩原孝一

忍野八海を源として相模湾に下る桂川は、大月市地内において国道20号に沿うように流下を続け、右岸に大規模な河岸段丘を形成させている。この段丘中位（海拔238m²）に本遺跡は存在する。この地域は、これまでこれほど広域な開発行為は皆無だったため遺跡の分布状況が掴みにくい場所であった。しかし、近年、大月市教育委員会による市立梁川小学校地内の発掘調査から縄文時代前期の土壌が検出されるなど僅かづつではあるが遺跡の展開が把握され始めている。

昨年度までの発掘調査では敷石住居跡・配石群・配石墓・集石土壙・石器製作跡などの様々な遺構の他、各種の土器・石器類が多数検出されている。

本年度は、第一期工事分の調査最終年にあたり、段丘縁辺部を含むし字状に残されていた未調査箇所の二面の文化層が調査対象となった。その調査結果は、次のとおりである。

〔下層〕 調査区全体に確認され、時期は縄文時代中期後半に求めることができる。遺構は、段丘縁辺部周辺を中心に竪穴住居跡4軒、埋壺52基、屋外炉7基などが検出された。この中で、目を引くものとして埋壺の多さがあげられる。また、検出される状況も単独のもの他、97-5号埋壺のように2～3基が集合しているものがある。また、特異なパターンとして97-28～32号埋壺のように約1.5m²の自然石を意識してその周間に設置されたものもみられた。

〔上層〕 調査区西側に厚く黒色土として認められる。時期は、縄文時代後期前葉から後葉に比定され、敷石住居跡4軒、配石8基、配石墓2基などが検出された。敷石住居跡はいずれも段丘上方からの土石流によってほとんどの遺物は流出していたものの、20～30cmの緑色岩系の自然石を使用した敷石が良好に検出できた。また、97-9号配石は直径12～15cmの不整円形で南東部に4m程の張り出しを持つ形状をとる。使用されている石材は30cm～1mの自然石で割石の設置は確認されなかった。この他、特殊遺物として97-6号住居跡隣接部より長さ80cm、直径26cmの大型石棒が出土している。

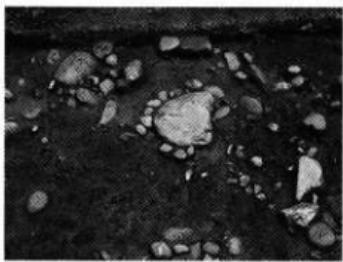
今年度の調査成果としては、今まで計画に検出できなかった縄文時代後期の文化層が広域に確認できたことがあげられよう。このことは、遺跡の主たる時代の特定や性格を知る上で大きな手がかりとなるものであろう。



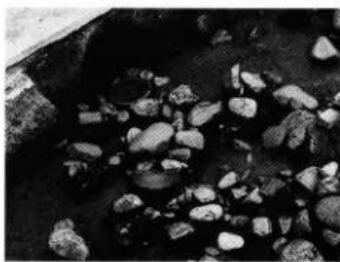
塩瀬下原遺跡 位置図



調査区全景（西側から）



97-1号 配石 検出状況



97-3号 配石 検出状況



97-5号 埋甕 検出状況



埋甕 調査風景

16. 南大浜遺跡

所在地 北都留郡上野原町鶴川字日野道1060
事業名 中央自動車道富士吉田線改築
調査期間 1997年4月21日～9月10日
調査面積 4,800m²
担当者 笠原みゆき・伊藤伸一

本遺跡は、中央自動車道富士吉田線上り車線の上野原町地内鶴川大橋の西側にあり、県道大月・上野原線の鶴川集落から大門集落へ抜ける途中に広がる尾根の先端部分に位置する。拡幅

工事の工程に基づいて、「南大浜遺跡」と呼んでいるが字名は日野道とい。上野原町誌に記載されている本来の南大浜遺跡は、高速道路を挟んで南側の段丘面のことであり、今回の調査区は1969年の道路建設に伴って、本線及び側道・工事用道路等に切り割りされた尾根の先端部分に当たると思われる。標高は約294～296mで西から東にかけて微妙に傾斜している。南大浜遺跡は、中心部分の発掘調査がまだ行われていないため遺跡の全容は明らかではないが、縄文時代中期末の土器片や黒曜石が採取されている。また、東南に隣接する大浜遺跡からも、縄文時代中期末や後期初頭の土器片や多くの石鏃・黒曜石製の錐、土師器などが採取され、南大浜遺跡と共通する部分が多いことから、この尾根全体を一つの遺跡とする見方も指摘されている。

今回の調査は3面にわたり、縄文時代早期から平安時代までの遺構・遺物が発見された。第1面では、土坑54基・溝状遺構57条・弥生時代中期の再葬墓1基が検出された。土坑は正円形が主で、小判形のものや隅丸形のものもある。土坑からの出土遺物は少なく、40号土坑からペンガラと思われる赤色顔料が付着した石が出しているのみである。再葬墓に使用された土器は、頸部が肩部で故意に欠かれた状態で逆さに埋められていた。壺の中の土壤の分析結果を待たなければならぬが、出土した状況や弥生時代中期の墓制の調査例から再葬墓の可能性が高いと思われる。県内では、この他に報告されている例として、明野村下大内遺跡がある。上野原町においては弥生時代の遺構の発見は稀であるため貴重な資料となった。

第2面では縄文時代前期から中期頃の焼土1基と集石遺構3基が検出された。焼土は試掘調査の段階で確認できていたものであったが、それ1基のみであった。掘り方は確認できず、焼土が薄く広がるだけであった。集石遺構は、遺跡全体で3基確認でき、50m程の間隔をあけて存在している。掘り込みは無いが焼けていると思われる拳大の割れ石が長径100cm・短径70cmほどの不整形をなしていた。焼土や集石内には遺物は含まれていないが、調査面からは有舌尖頭器が1点と石器や土器が出土している。

第3面では縄文時代早期の陥し穴36基・土坑24基・風倒木10基の合計70基が検出できた。陥し穴は、調査区全体から確認されており、当時の狩猟の場として重要視されていたことが窺わ



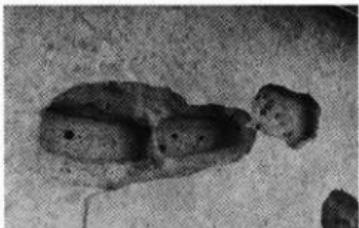
南大浜遺跡 位置図

れる。穴の掘り方は、一様ではなく大きさ深さなど様々である。大浜・南大浜遺跡と谷を挟んで存在する大柄I・II遺跡は1992年から帝京大学文化財研究所によって調査され、今回の調査では発見出来なかった集落の痕跡を含めて、縄文時代早期から後期、平安から近世にかけての遺構・遺物が検出されている。

今後、引き続き南大浜遺跡木本の調査も行われる予定ということだが、現在までの調査結果と今回のものとは時代の差はあまり感じられない。谷を挟んで同時代の遺跡が存在するということは、大浜遺跡と大柄遺跡の関係が一つとなる可能性も推定でき興味深い。対岸の大柄遺跡からも同時期の陥し穴が沢山検出されているため、近くに集落があるだろうと推定されるが、現在、確認できていない。ここ数年間で当遺跡の存在する大柄地区の発掘調査が行われ、遺跡の内容が明確になってきている。しかし、集落・墓域・生産の場が揃って見つかることがない。遺跡自体が段丘面の先端に近い位置にあるため、今後、その周辺一帯の発掘調査が行われることを期待している。



再葬墓検出状況



第3面 19. 20. 34号土坑



第1面 東景



第3面 全景

ながみねとうじ
17. 長峰砦遺跡

所在地 北都留郡上野原町大門1108外

事業名 中央自動車道富士吉田線改築

調査期間 1997年11月21日～12月25日

調査面積 11,500m²

担当者 笠原みゆき・伊藤伸一

本遺跡は、中央自動車道下り線、談合坂サービスエリアの東側約2kmの地点に位置し、標高342mから366mを測る。付近の仲間川の南側にそって発達する狭く長い尾根上にあたり、江戸時代の甲州街道が通過する要衝の地にあたる。

遺跡範囲は、中央自動車道のショートカット区間の長さ約700m・幅40mほどの地域である。本年度の調査は平成7年度調査実施以外の大門地区買収地域で、航空測量図の作成と丸山地区の土器、及び帶曲輪状のテラス面の遺構確認をおこなった。

調査の結果、長峰砦の築造年代である戦国期の遺構は検出されなかったが、移転した丸山稻荷神社のものと思われる一間半四方に配置された礎石や瓦、さらに寛永通宝など近世から近代にかけての錢貨や磁器片が検出された。

長峰砦の主体は、土壘や曲輪状の遺構が地上観察から窺える本年度調査区の西側に展開しており、来年度に調査を実施する予定である。



長峰砦遺跡 位置図



調査風景 1



調査風景 2

18. 八ヶ岳東南麓遺跡群ほか分布調査

18-1 中部横断道試掘調査

所在地 中巨摩郡八田村地内

事業名 中部横断道試掘調査

調査期間 1997年12月16日～1998年3月4日

調査面積 30,000m² (20m×1,500m)

担当者 米田明訓・三田村美彦

中巨摩郡八田村地内における中部横断道予定地内で既に日本道路公団によって用地買収が終了している範囲について埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。調査は当初平成9年12月から翌10年1月柱に終了する予定であったが、月に甲府地方が記録的な大雪に見舞われたために、3月まで実施がずれ込んでしまった。

調査区に幅1.5m×長さ30～100mのトレーナーを23本設定し、重機により掘削を行った後、作業員の精査による土層断面観察と遺構・遺物の有無を確認した。具体的な調査範囲は、八田村地内の北巨摩郡双葉町との境の富士川右岸から、中巨摩郡白根町との境の県道竜王・芦安線際までの区間である。調査範囲は長さにして1.5kmにも及び、所々に御勅使川の旧流路が確認された。それらの箇所については地表の耕作土直下から砂礫が厚く堆積しており、重機による深堀は危険なためトレーナーの深さも限定された。

調査の結果、試掘調査実施以前より富士川の堤跡として発掘調査実施の必要性が認識されていた1箇所の遺跡（1）以外に、八田村野牛島で、新たに2箇所の遺跡を確認することができた。一つは野牛島字仲田（2）において確認された中世の水田跡（7,500m²、仲田遺跡と命名）、もう一つは野牛島字立石下（3）において確認された平安時代の集落跡（11,000m²、立石下遺跡と命名）である。この範囲では土壤は安定しており、2m以上掘り下げても砂礫が全く存在しない状態であった。

仲田遺跡については、遺物として若干の上器片が、遺構としては水田跡の畔が広い範囲で確認された。

立石下遺跡については、遺物としては多くの土器片が、遺構としては明確な住居跡が2基と住居跡の可能性が強い落ち込みが1基確認された。調査範囲が道路公団分の限られた範囲である上に、少ないトレーナーであることを考えると、調査区の外側に広がる建設省分の土地を含めて遺構が広く分布している可能性が高い。

これにより、先に記した富士川の堤跡を含め、今回試掘調査の対象とした範囲では、3箇所の遺跡について発掘調査の実施が必要となった。今後は北巨摩郡双葉町地内と中巨摩郡白根町地内の試掘調査が予定されている。



試掘調査範囲

18-2 松葉畠南地区試掘調査

所在地 東八代郡石和町松葉畠南

調査期間 1997年5月7日

調査面積 60m² (740m²)

担当者 小林広和・保坂康夫

岐東流域下水ポンプ場建設予定地の遺跡所在確認調査である。長さ10~12m、幅2mの調査溝を、長軸を南北方向に平行して3本設定し掘り下げた。まず、バックホーで深さ1.5mほど

を掘り下げたところで、砂層の下に黒色土層が確認されたのでその面を人力にて精査したが、10~12cmほどで砂層となり、遺物・遺構は確認されなかった。さらに砂層を1m程度、バックホーで掘り下げたところ、下位の黒色土層を確認したので、人力にて精査したが遺物・遺構は確認されなかった。なお、最も東に設定した調査溝では、2mもの厚い砂層の下から泥炭層が50cmほどの厚さでみられたが、遺物・遺構は確認できなかった。



松葉畠南地区 試掘調査地点

18-3 西関東自動車道路関連遺跡分布調査

所在地 東山梨郡春日居町鎮目、保雪寺裏地内

調査期間 1997年5月8日

調査面積 10ha

担当者 小林広和・保坂康夫

西自動車道路関連で、大藏經寺山東麓のトンネル入口付近の、遺跡所在確認のための踏査である。トンネルの開口部の大藏經寺山東麓の斜



西関東自動車道路関連分布調査地域

面では、巨石が何カ所かにみられ、須恵器の分布する地点もあった。斜面下端の山沢川東側の緩斜面では、黒曜石の剥片が広く分布していた。その緩斜面の北方の山の斜面には平林古墳が所在し、用地内に墳丘全体が入っていた。墳丘は直径約20mで、石室は天井も含め保存状況が良好である。また、その南側の沢にかけて須恵器片などの分布がみられ、巨石が並ぶ地点もあった。今回踏査を行った地域では、少なくとも5カ所の遺跡や古墳の所在が確認できた。

18-4 中央道八ヶ岳パーキングエリア改良工事 対象地域試掘調査

所在地 北巨摩郡長坂町大八田、白井沢

調査期間 1997年5月13日～6月16日

調査面積 2,800m² (25,000m²)

担当者 小林広和・保坂康夫

中央道八ヶ岳パーキングエリア改良工事に伴う試掘調査で、3つの地区の調査を実施した。中央道北側で最も東側の地区では、長さ50～10m、幅2mの調査溝を40本設定した。小山の斜面から水田地域に臨む緩斜面にかけての地形がみられるが、下位の平坦面から旧石器時代の石刀、搔器、打製石斧の調整剥片などの石器や剥片が20点ほどと、配石、礫群を構成すると思われる礫が数点確認された。厚さ30cmほどの耕作土層直下のローム層中で、上面から30cmほどの範囲内に分布する。遺跡範囲は2,000m²ほどである。調査地域西端の地区では長さ25～5m、幅2mの調査溝を9本設定した。小山の東側緩斜面で、竪穴状遺構や小ピット等を数十基確認し、中世の遺跡であることが確認された。遺跡範囲は1,000m²ほどである。中央道南側の調査地区では、1.5m四方の試掘坑を26ヵ所設定し人力で掘り下げた。小山中腹にある平坦面で、弥生時代初頭の条痕文土器を中心に数十点の遺物を確認した。厚さ約2mほどの黒色土の堆積がみられ、古い河道が埋没したものと思われる。遺跡範囲は1,000m²ほどである。

18-5 元免許地区試掘調査

所在地 中巨摩郡竜王町竜王新町元免許

調査期間 1997年7月2日～8日

調査面積 180m² (2,500m²)

担当者 小林広和・保坂康夫

国鉄清算事業団の所有地で宅地等の開発に伴う遺跡所在確認のための試掘調査である。長さ15m、幅2mの調査溝を南北方向にして平行して6本設定した。厚さ50cmほどの瓦礫の埋め立て層、山土客土層があり、その下位には厚さ20cmほどの褐色シルト層がみられる。その下位は、地表から2～2.5mを掘り下げたが砂礫層であった。遺物・遺構はまったく確認されなかった。



元免許地区 試掘調査地点

18-6 大林遺跡範囲確認調査

所在地 北巨摩郡長坂町長坂上条

調査期間 1997年7月14日～28日

調査面積 320m² (3,800m²)

担当者 小林広和・保坂康夫

郵政省直轄の日野春郵便局移転予定地の遺跡範囲確認のための試掘調査である。長さ40～15m、幅2mの調査溝を調査地域全体に厚さ1.5m～3mもの瓦礫層がみられ、その直下は

若干の黒色土層を介してローム層がみられる。調査地区最南端部で平安時代の9世紀半ば頃の甲斐型土器を出土する住居跡1軒を確認した。また、南東部で旧石器時代の剥片を確認したため、長さ10～2m、幅50cmほどの調査溝をさらに設定し、ローム層の深掘作業を行った。その結果、旧石器時代の剥片がローム層中50cmほどの深さまでに分布し、合計25点を確認した。遺跡の面積は約3,000m²と思われる。



大林遺跡 試掘調査地点

18-7 石和警察署移転予定地試掘調査

所在地 東八代郡石和町市部

調査期間 1997年10月14日～21日

1998年3月30日～31日

調査面積 330m² (7,600m²)

担当者 小林広和・保坂康夫

山梨県警石和警察署移転予定地の遺跡所在確認のための試掘調査である。長さ30～15m、幅2mの試掘溝を長軸を東西方向にして平行して6本設定し、バックホーで2.5m程度まで掘り下げた。いずれの調査溝でも、厚さ2mほどの砂層がみられ、その下位に黒灰色のシルト層の堆積があり、2.5～3mで湧水した。砂層はラミナの発達がみられ、薄い礫層も2～3枚みられる。黒灰色のシルト層の上部から、近世・近代と思われる陶磁器や漆椀などが数点出土したが、出土量がきわめて少なく、遺構もみられなかった。



石和警察署移転予定地 試掘調査地点

18-8 宮久保地区試掘調査

所在地 薩摩市穂坂町宮久保

調査期間 1997年11月10日～12月2日

調査面積 2,000m² (10,000m²)

担当者 小林広和・保坂康夫

県営アパート建設予定地の遺跡所在確認のための試掘調査である。長さ80～30m、幅2mの調査溝を28本設定した。各調査構内には、旧石器時代遺物の確認のため、幅1mの調査溝を設定し、さらに50～100cmを深掘りした。30cmほどの黒褐色土層、50～100cmほどの褐色粘土質土層、約50cmの白褐色粘土質土層、10cmほどの鉄分沈着層、20～30cmほどの白灰色粘土層、基盤礫層といった土層がみられた。白褐色粘土質土層は約8万年前の降灰の御岳第1軽石層の変質層と思われる。遺物・遺構は全く確認できなかった。



宮久保地区試掘調査地域

18-9 御立原遺跡試掘調査

所在地 大月市大月3丁目字御立原1145-3外

調査期間 1997年7月28日～7月31日

調査面積 120m² (1,650m²)

担当者 長沢宏昌・崎田 哲

大月公共職業安定所の移転予定地の遺跡確認のための試掘調査である。長さ5～2m、幅2～6mの調査溝を10カ所設定し掘り下げた。いずれの調査溝でも、深さ60～100cm程度が客土ないし搅乱層である。その下位に、暗褐色粘土質土層が1m程度みられ、さらに下部には、ローム層が確認できた。5カ所の調査溝から数点の土器等の遺物がみられたが、出土量が微量で遺構も確認できなかった。



御立原遺跡 試掘地点

Ⅲ 県内の概況

1. 発掘調査 本年度に実施された発掘調査は、試掘調査も含めて183件で、調査主体別に見ると県が26件、市町村が155件、調査団によるものが2件となっている。原因別に見ると、住宅52件、道路38件、その他建物26件、その他開発が17件、宅地造成16件、農業関連9件、学校4件、工場3件、公園造成3件、土砂採取2件、電気2件、区画整理2件、観光開発2件といった緊急調査が176件、学術調査が7件となっている。

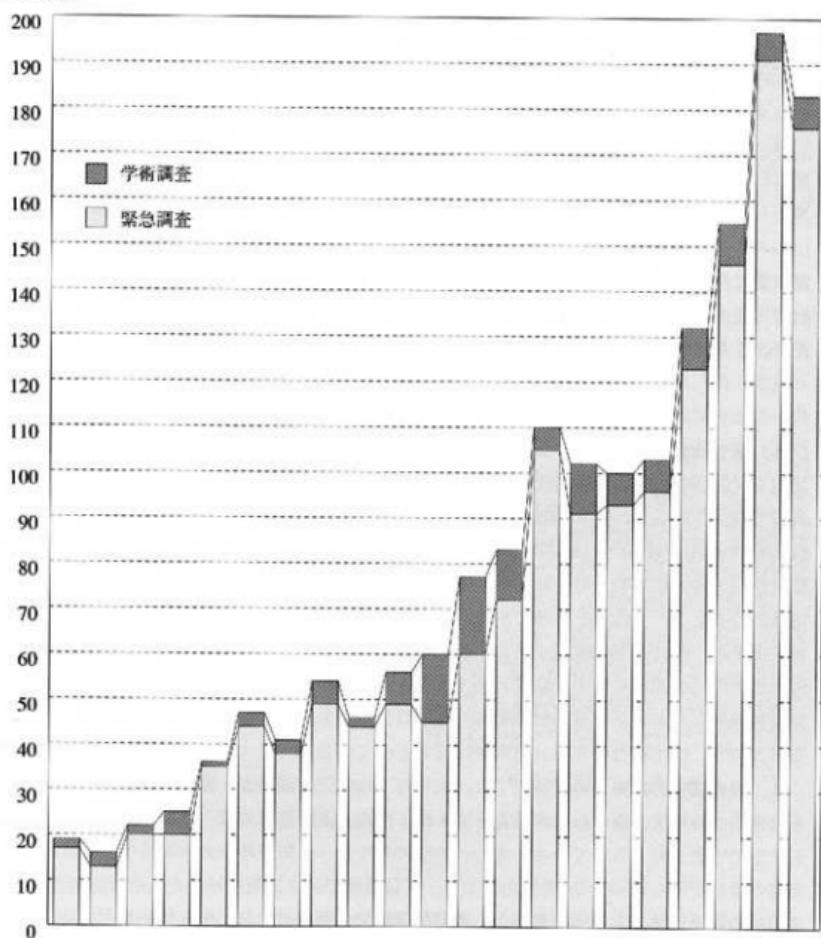
2. 遺跡の保存整備 国指定史跡の武田氏館跡では、整備のため調査が継続的に行われ、絵図にはない遺構が確認された。同じく国指定史跡の谷戸城跡でも整備を前提にした発掘調査が進められた。県指定跡の岩殿城跡でも学術調査が進められ建物跡など確認されている。富士吉田市の吉田登山道の2年次の調査では石碑遺構が確認された。また平成2年度から継続して公園整備に伴う発掘調査が進められている県指定史跡の甲府城跡では、山手門付近において、甲府駅周辺の都市拠点整備に先立つ確認調査が行われ、甲府城築城期と見られる石垣と堀の一部が確認され、開発保存かで広く注目を集めた。今後さらに必要な調査や関係者の協議などにより結論が得られることになるが、甲府城の範囲や史跡指定範囲外での埋蔵文化財としての取り扱いなど適切な対応が求められている。

3. 調査体制 埋蔵文化財専任職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）については、県が学術文化財課3名（他に博物館関係1名）、埋蔵文化財センター33名（他に非常勤嘱託2名）、考古博物館2名（他に非常勤嘱託1名）、市町村では、甲府市6名、御坂町2名（他に教育委員会外に1名）、韮崎市（他に非常勤嘱託1名）、都留市・塩山市・山梨市・春日居町（資料館兼務）・勝沼町・牧丘町・石和町・中道町・境川村・豊富村・八代町・一宮町（他に佐野堂博物館に1名）・三珠町・増穂町・櫛形町・甲西町・白根町・敷島町・竜王町・双葉町・大泉村・須玉町（他に非常勤嘱託1名）・長坂町（他に非常勤嘱託1名）・明野村・高根町・武川村・白州町・小淵沢町・上野原町に各1名、また大月市の博物館に2名、富士吉田市の歴史民俗資料館等に2名が、若草町と昭和町の共同設置で1名の合計45名（非常勤嘱託3名含む）となっており、64市町村のうち36市町村に配備されている。

4. 発掘調査の結果 繩文時代では、大月市の塩瀬下原遺跡が、多量の石皿などを含んだ配石遺構中心の縄文遺跡の様相が話題を呼んだ。また、上野原町の原・郷原遺跡で縄文後期の敷石住居の好例が報じられている。また、弥生時代では、上野原町南人浜遺跡で、弥生中期の円錐墓の資料が明らかになり、甲府市富士見一丁目遺跡では水田遺構等がそれぞれ話題となった。境川村の西原遺跡で方形周溝墓群が、諏訪尻遺跡では県内最大級の堅穴住居など弥生から古墳時代にかけての集落跡が明らかになった。古墳時代では、塩山市下西畠遺跡で方形周溝墓群が長坂町龍角西遺跡で集落が確認された。一宮町南西田遺跡では、平安集落に重複して道路状遺構が発見され、また韮崎市の石之坪遺跡も昨年から継続しての集落調査が注目された。中世では、長坂町横針遺跡で地下式土壙など墓域とみられる遺構が明らかになった。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移

(単位:件)



	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
学術調査	2	3	2	5	1	3	3	5	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7
緊急調査	17	13	20	20	35	44	38	49	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176
合計	19	16	22	25	36	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155	197	183

1997年度 発掘調査一覧表

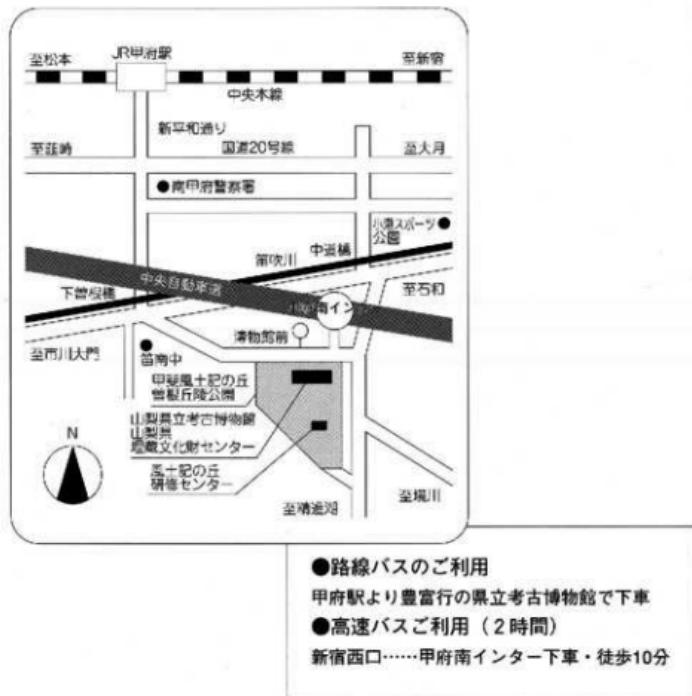
調査名	所在地	測量面積	遺跡の種類	調査時代	調査目的	調査主体	調査期間
1 長ノ原鬼塚	「印」字跡地(大下郷)15世帯	5,360.00	墓葬群	古・奈・平 近世	発掘調査	農業土木委員会	1997/4/2～1997/8/31
2 平野遺跡	中村山丸の内(市)5丁目	8,200.00	墓葬地	近世	公的遺跡	農業土木委員会	1997/4/7～1998/3/31
3 佐渡城跡	中村山遺跡付近(佐久間)716.1ha	500.00	墓葬地	近世・元世 その他の遺跡	その他の遺跡	農業土木委員会	1997/4/1～1997/4/30
4 点宮遺跡	中村山長松町799.1ha	5,067.06	その他の遺跡(構造物調査)	その他の遺跡	その他の遺跡	農業土木委員会	1997/4/1～1997/5/31
5 八幡神社遺跡	中村山市吉田町11	1,051.43	墳丘墓	近世 （住宅）	近世 （住宅）	農業土木委員会	1997/4/11～1997/4/30
6 七代山遺跡	北朝鮮官上郡(伊勢)1060	2,080.00	墓葬群	古世 （住宅）	遠隔 （住宅）	農業土木委員会	1997/4/1～1997/3/31
7 海心寺遺跡	甲府市市立上ノ原(105)	2,080.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	農業土木委員会	1997/4/1～1997/4/30
8 貴人谷遺跡	東八代県立農業技術小山山麓	20.00	墓葬地	古世 （住宅）	その他の遺跡 （別荘）	農業土木委員会	1997/1/11～1997/2/21
9 山の伴遺跡	北上郡内野町川北(4189.4ha)	90.00	墓葬地	古世 （住宅）	その他の遺跡 （別荘）	農業土木委員会	1997/4/16～1998/3/31
10 高音鬼塚	北上郡高辻町(1985.2ha)	90.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	農業土木委員会	1997/4/21～1997/5/30
11 三園山古墳群	東八代第一原(14.4ha)	31.52	古墳群	古世 （住宅）	古世 （住宅）	農業土木委員会	1997/4/28～1997/6/30
12 天元山遺跡	東八代第一原(67.67ha)	1,052.47	集落跡	古世 （住宅）	古世 （住宅）	農業土木委員会	1997/4/28～1997/5/30
13 新宿遺跡	中上宇都日御見御野羽瀬353.1	1,337.00	軽石地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	新宿遺跡委員会	1997/4/6～1997/5/6
14 梅林遺跡	東八代鬼塚町(560.1ha)	883.52	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	新宿遺跡委員会	1997/4/28～1997/5/2
15 人出遺跡	中上宇都鬼塚町小笠字八田(21.1ha)	3,000.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/6～1998/3/31
16 金城原遺跡	東八代鬼塚町(3893.11ha)	3,000.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/6～1998/3/31
17 長坂遺跡	東八代郡石川郡(小坂)赤坂1110.1ha	740.00	聚落跡	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/7～1997/5/7
18 金崎山遺跡	北上郡高畠町(3545.2627ha)	360.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/4/4～1997/7/15
19 金浦伝子遺跡	北上郡高畠町(3545.590ha)	20.00	軽石地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/4/16～1997/5/11
20 乾田遺跡	北上郡高畠町(25.59ha)	10.00	軽石地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/4/14～1997/5/11
21 保寺寺遺跡	東八代鬼塚町(1986.1ha)	3,000.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/8～1997/12/28
22 鹿角下郷鬼塚	大月市立御坂原(1.82ha)	5,000.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/12～1998/3/31
23 御水鬼塚	西山(1.47ha)	2,000.00	墓葬地・その他の墓	古世・近世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/6～1997/5/29
24 金浦鬼塚	北上郡高畠町(3545.590ha)	15.00	軽石地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/5～1997/5/11
25 中原鬼塚	中村山丸の内(市)5丁目573.3ha	2,500.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/7～1997/5/18
26 宮ノ山遺跡	北上郡高畠町(1.59ha)	24,980.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/13～1997/6/13
27 北小糸鬼塚	北月市立御坂原(1.676ha)	18.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/4/21～1997/4/21
28 原鬼塚	大月市立御坂原(1.712ha)	7,219.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	大月市教育委員会	1997/4/22～1997/9/9
29 井戸鬼塚	北上郡高畠町(714.71ha)	2,500.00	散布地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/4/21～1997/5/30
30 甲ツ原遺跡	北上郡鬼塚町(4.853.5ha)	645.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/10～1997/5/30
31 大林鬼塚	北上郡鬼塚町(3.151ha)	7,700.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/12～1997/5/31
32 大木山遺跡	北上郡鬼塚町(26.04ha)	1,700.00	軽石地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/12～1998/3/31
33 北山下郷鬼塚	北上郡鬼塚町(18.901.1ha)	1,200.00	その他の遺跡 （古跡）	古世 （住宅）	その他の遺跡 （古跡）	山梨県教育委員会	1997/4/1～1997/5/31
34 奥沢石塚(未詳)	中村山市立御坂原(1.591.1ha)	460.00	古跡	古世 （住宅）	古世 （住宅）	山梨県教育委員会	1997/5/6～1997/5/31
35 五代・六代鬼塚	南巨摩郡日野町(2.371ha)	744.00	墓葬地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	南巨摩郡教育委員会	1997/5/22～1997/6/30
36 台原鬼塚	北上郡高野町(1445.28ha)	2,600.00	軽石地	古世 （住宅）	古世 （住宅）	北上郡教育委員会	1997/5/10～1998/3/31

地名	通称	面積(ha)	面積(he)	道路の種類	道路の時代	測量の時代	測量の時代	測量の時代
37 扇子松原跡	扇子松原八代町西1344地	780.00	扇形地	自転車通行	昭和	大正(引取保委員会)	1997/5/12～1997/9/30	1997/5/12～1997/9/30
38 北川原移耕跡	中三井通白樺林并原上ノ原21457-1他	1,337.00	谷筋地	通行	昭和	日野町教育委員会	1997/5/25～1997/5/28	1997/6/1～1997/7/30
39 僧院跡	中田1丁目5丁目406-1	246.59	板状地	通行	昭和	平野市教育委員会	1997/6/9～1997/8/30	1997/6/9～1997/8/30
40 古跡跡(即ち古跡跡)	扇子松原八代町西3通び海坂原1995-2他	500.00	板状地	生垣	昭和	川越町教育委員会	1997/4/21～1998/3/31	1997/4/21～1998/3/31
41 西向田池跡	扇子松原八代町外井	5,000.00	谷筋地	酒井	昭和	一宮町教育委員会	1997/4/21～1998/3/31	1997/4/21～1998/3/31
42 内野跡(即ち内野)	中田1丁目5丁目358-2他	8,300.02	海坂地	通用	昭和	日野町教育委員会	1997/6/2～1997/6/14	1997/6/2～1997/6/14
43 犬山池跡	北三井通改築下田頭里人14361他	999.00	谷筋地	その他地物(羽生)	昭和	高尾町教育委員会	1997/5/21～1997/6/30	1997/6/2～1997/6/30
44 桜寺跡(即ち桜寺跡)	北三井通改築下田頭里人14361他	750.00	板状地	酒井	昭和	日野町教育委員会	1997/6/2～1997/6/30	1997/6/2～1997/6/30
45 会泽池跡	北三井通改築下田頭里人14361他	973.55	谷筋地	生垣	昭和	無数町教育委員会	1997/5/20～1998/3/31	1997/5/20～1998/3/31
46 別所池跡	中田1丁目5丁目3-1他	250.00	板状地	矢井・平・生垣	昭和	甲斐市教育委員会	1997/5/12～1997/6/13	1997/5/12～1997/6/13
47 久の岩池跡	北三井通改築下田頭里人14361他	8,500.00	荒落地	鶴見	昭和	高尾町教育委員会	1997/6/14～1997/7/20	1997/6/14～1997/7/20
48 佐久間池跡	北三井通改築下田頭里人14361他	1,500.00	谷筋地	鶴見・平	昭和	高尾町教育委員会	1997/4/21～1997/5/26	1997/4/21～1997/5/26
49 甲斐2丁目池跡	甲斐2丁目	1,300.07	谷筋地	白・青・平	昭和	中野市教育委員会	1997/5/29～1997/6/29	1997/5/29～1997/6/29
50 箱谷池跡	北三井通改築下田頭里人14361他	10.00	板状地	鶴見	昭和	立川市教育委員会	1997/6/5～1997/7/31	1997/6/5～1997/7/31
51 西向田池跡	大字赤坂新町1通6番地	1,038.00	板状地	白・青	昭和	人見市教育委員会	1997/5/3～1997/6/30	1997/5/3～1997/6/30
52 萩原池跡	中田1丁目5通6番地	16.00	板状地	白・青・中低	昭和	鶴見町教育委員会	1997/6/17～1997/7/20	1997/6/17～1997/7/20
53 小川池跡	北三井通改築下田頭里人14361他	486.00	谷筋地	平・青	昭和	大泉町教育委員会	1997/5/20～1997/6/30	1997/5/20～1997/6/30
54 石畠池跡	北三井通改築下田頭里人14361他	80.00	谷筋地	鶴見	昭和	飯能町教育委員会	1997/5/26～1997/6/30	1997/5/26～1997/6/30
55 野瀬池跡	中田1丁目5通6番地	11,000.00	谷筋地	通路	昭和	天王町教育委員会	1997/5/26～1997/6/30	1997/5/26～1997/6/30
56 富士原跡	北三井通改築下田頭里人14361他	5,000.00	谷筋地	鶴見・人	昭和	民家町教育委員会	1997/5/13～1997/6/31	1997/5/13～1997/6/31
57 大原通跡(大門・1通跡)	北三井通改築下田頭里人14361他	5,700.00	谷筋地	鶴見・平安	昭和	八代町教育委員会	1997/6/20～1997/7/12	1997/6/20～1997/7/12
58 大原通跡	北三井通改築下田頭里人14361他	26.00	谷筋地	鶴見・平	昭和	八代町教育委員会	1997/5/19～1997/6/20	1997/5/19～1997/6/20
59 鹿谷木格	北三井通改築下田頭里人14361他	48.00	板状地	鶴見	昭和	八代町教育委員会	1997/6/26～1997/7/1	1997/6/26～1997/7/1
60 中谷疋	北三井通改築下田頭里人14361他	4.00	板状地	鶴見・小・高	昭和	高尾町教育委員会	1997/6/30～1997/6/30	1997/6/30～1997/6/30
61 人保池跡	高尾町1丁目1通6番地	2,242.55	谷筋地	鶴見	昭和	高尾町教育委員会	1997/6/20～1997/7/31	1997/6/20～1997/7/31
62 忍25通跡	中田1丁目5通6番地	2,500.00	谷筋地・坡地地	鶴見	昭和	山梨県教育委員会	1997/7/2～1997/7/31	1997/7/2～1997/7/31
63 小川原跡(5通6番)	北三井通改築下田頭里人14361他	5,000.00	谷筋地	鶴見・平	昭和	白州町教育委員会	1997/7/1～1997/7/30	1997/7/1～1997/7/30
64 本日・吉坂	中田1丁目5通6番地	5,920.00	谷筋地	平安	昭和	日野町教育委員会	1997/7/17～1997/7/17	1997/7/17～1997/7/17
65 人保池跡	中田1丁目5通6番地	3,810.87	谷筋地	鶴見	昭和	山梨縣教育委員會	1997/7/14～1997/7/28	1997/7/14～1997/7/28
66 間山川池跡	中田1丁目5通6番地	4,000.00	谷筋地	平安	昭和	中野市教育委員会	1997/6/15～1997/7/15	1997/6/15～1997/7/15
67 本河原跡	中田1丁目5通6番地	4,000.00	板状地	鶴見・中・近	昭和	宮町教育委員会	1997/6/5～1997/8/31	1997/6/5～1997/8/31
68 丁之四番地	高尾町1丁目5通6番地	5,000.00	谷筋地	鶴見・中・近	昭和	春日部市教育委員会	1997/5/20～1998/3/31	1997/5/20～1998/3/31
69 伝承原跡	高尾町1丁目5通6番地	40.00	谷筋地	鶴見	昭和	春日部市教育委員会	1997/6/12～1998/3/31	1997/6/12～1998/3/31
70 三重原跡	高尾町1丁目5通6番地	1,600.00	板状地	鶴見・平	昭和	春日部市教育委員会	1997/5/19～1998/3/31	1997/5/19～1998/3/31
71 沼原水道跡	北三井通改築下田頭里人14361他	2,000.00	板状地	鶴見	昭和	高尾町教育委員会	1997/5/22～1997/8/29	1997/5/22～1997/8/29
72 八幡・八幡社化・今井背溝跡	北三井通改築下田頭里人14361他	960.00	谷筋地	鶴見・中・近	昭和	若葉町教育委員会	1997/7/28～1997/9/30	1997/7/28～1997/9/30
73 地百疋跡	北三井通改築下田頭里人14361他	6,397.00	谷筋地	中・近・低	昭和	深沢町教育委員会	1997/6/26～1997/6/27	1997/6/26～1997/6/27
74 明治水道跡	大門1丁目5-3丁目通1原145-3他	1,600.00	谷筋地	平安	昭和	山梨県教育委員会	1997/7/28～1997/7/31	1997/7/28～1997/7/31

75	浅間温泉	15,400	森吉地	綿文	その他の施設(宿泊施設等)	大正山地資源委員会	1997/7/19~1997/7/22
76	今井川温泉	30,000	新今井	平文・半	温泉	御所野教育委員会	1997/7/9~1997/9/30
77	小川子温泉	100,000	新今井	綿文	住宅	新潟教育委員会	1997/8/8~1997/10/31
78	宮の原温泉	125,000	新今井	綿文・半	温泉	山形県教育委員会	1997/8/15~1997/10/31
79	鶴見温泉	1,000,000	その他の施設(十日町)	中世	温泉	山形県教育委員会	1997/8/15~1997/10/31
80	海老温泉	1,500,000	美濃原	綿文	温泉	山形県教育委員会	1997/9/1~1997/11/29
81	角野川温泉	85,000	裏湯原	綿・半・古	温泉	新潟教育委員会	1997/8/19~1997/8/26
82	の沢温泉	21,000,000	新今井	綿文	温泉	米子教育委員会	1997/9/1~1998/3/31
83	利根川温泉	30,000	新今井	綿文	温泉	山形県教育委員会	1997/9/1~1997/9/2
84	常見温泉	150,000	中世	綿文	温泉	山形県教育委員会	1997/8/27~1998/3/31
85	板井温泉	250,000	美濃原	綿文	温泉	福島市教育委員会	1997/9/9~1998/3/31
86	西之庄温泉	160,000	守谷	綿文	温泉	福島市教育委員会	1997/9/10~1997/10/1
87	女波温泉	10,000	新今井	綿文	温泉	福島市教育委員会	1997/9/9~1997/10/31
88	田代温泉	973,000	新今井	平文	温泉	福島市教育委員会	1997/9/10~1997/9/10
89	佐久温泉	2,600,000	新今井	綿・半・古	温泉	山形県教育委員会	1997/8/29~1997/10/31
90	猪俣温泉	300,000	新今井	綿文・半	温泉	小瀬川教育委員会	1997/8/20~1997/11/28
91	長柄温泉	1,800,000	新今井	綿文・半	温泉	小瀬川教育委員会	1997/8/20~1997/11/28
92	北山温泉	50,000	新今井	綿文	温泉	上野原教育委員会	1997/9/18~1997/9/22
93	西条温泉	397,300	新今井	綿文	温泉	人見教育委員会	1997/9/17~1997/9/18
94	神木町温泉	1,150,000	美濃原	平・余・半	その他の施設(保健センター)	日吉原教育委員会	1997/9/17~1998/3/31
95	小川長尾温泉	46,000	新今井	平文	温泉	川原山教育委員会	1997/8/25~1997/10/30
96	小川温泉	955,500	新今井	平文	温泉	志賀村教育委員会	1997/7/1~1997/10/31
97	荒見原温泉	1,000,000	美濃原	平文	温泉	山陽教育委員会	1997/9/16~1998/3/31
98	大刀洗所	720,54	美濃原	平・余・半	温泉	下仁田教育委員会	1997/9/1~1997/10/6
99	甲州市温泉	22,50	新今井	綿文	温泉	八代郡教育委員会	1997/10/1~1997/10/24
100	竹原・朝日温泉	7,600,000	新今井	平文・余・半	その他の施設(營業者)	山形県教育委員会	1997/10/14~1997/10/24
101	弓削温泉	1,771,00	新今井	綿文	温泉	飯豊町教育委員会	1997/10/13~1997/10/17
102	三川温泉	600,000	新今井	平文	温泉	1丁目教育委員会	1997/10/1~1997/10/31
103	甲子温泉	15,000	新今井	平文	温泉	大里村教育委員会	1997/8/25~1997/9/25
104	リノ泉温泉	8,000	新今井	平文	温泉	摩鹿村教育委員会	1997/10/14~1997/10/14
105	立石山温泉	4,252,00	新今井	平文・半	温泉	山陽教育委員会	1997/10/6~1998/3/31
106	湯見十丁目温泉	338,45	新今井	平文	温泉	反対町教育委員会	1997/10/8~1997/10/3
107	坊沢温泉	2,000,000	その他の施設(旅館等)	平文	温泉	福島市教育委員会	1997/10/3~1997/12/31
108	ト西湖温泉	15,000	新今井	平文	温泉	大里村教育委員会	1997/10/3~1997/10/4
109	北戸臺温泉	4,279,40	新今井	平文	温泉	喜多方教育委員会	1997/10/20~1997/10/20
110	代中東温泉	3,500	新今井	平文	温泉	小瀬川教育委員会	1997/10/8~1997/10/9
111	スリオントック温泉	2,251,00	新今井	平文	温泉	山形県教育委員会	1997/10/28~1998/2/26
112	石巻北安温泉	2,000,00	新今井	平文	温泉	小瀬川教育委員会	1997/10/23~1997/10/24

順位	地名	所在地	面積(ha)	用途の様式	造成の年代	開委日付	担当会員	誕生日
114	紫川河跡	北上郡那賀町下条町下条	2,500.00	漁池	1970-平成	1997/10/1 - 1998/12/20	永井教育委員会	1997/10/1 - 1998/12/20
115	原・郡原村	北上郡阿賀町上野原町5646956	500.00	赤字地	原文	1997/10/6 - 1998/3/31	上野原教育委員会	1997/10/6 - 1998/3/31
116	横羽渓谷	東八代郡阿賀町人見町347-1他	523.00	赤字地	横羽	1997/10/6 - 1997/11/28	横羽教育委員会	1997/10/6 - 1997/11/28
117	朝日平野地	大利市朝日町治田472他	120.00	赤字地	中條	1997/11/4 - 1997/11/28	大利市教育委員会	1997/11/4 - 1997/11/28
118	松川河跡-2次の河跡地	大利市朝日町治田2-2他	24.00	赤字地	半井	1997/11/4 - 1997/11/4	大利市教育委員会	1997/11/4 - 1997/11/4
119	横羽渓谷	東八代郡阿賀町月見1-1002-2他	970.50	赤字地	小・森平	1997/11/11 - 1997/11/21	興利教育委員会	1997/11/11 - 1997/11/21
120	宮古保育園	新潟市南区宮古保育園465地	10.000	赤字地	平安	1997/11/18 - 1997/12/5	新潟市教育委員会	1997/11/18 - 1997/12/5
121	仲花園跡	北上郡伊達町土新町154-4	4.00	赤字地	佐世	1997/11/14 - 1997/11/14	東下教育委員会	1997/11/14 - 1997/11/14
122	花園林	北上郡伊達町土新町154-16	100.00	その他の構造物「新穴」	柳文	1997/10/20 - 1997/10/31	小沢教育委員会	1997/10/20 - 1997/10/31
123	森川保育園	北上郡伊達町人見1-16811-549地	1,000.00	赤字地	範久	1997/11/1 - 1997/11/23	山形県教育委員会	1997/11/1 - 1997/11/23
124	松川傍流地	北上郡伊達町水門110地	11,500.00	赤字地	中山	1997/11/21 - 1998/3/31	川崎教育委員会	1997/11/21 - 1998/3/31
125	川之上保育園	北上郡伊達町月見1-10045	2,731.58	赤字地	範久	1997/10/10 - 1997/10/9	小瀬川教育委員会	1997/10/10 - 1997/10/9
126	川原保育園	北上郡伊達町月見1-10045	2,980.00	赤字地	佐井	1997/9/11 - 1997/11/26	小瀬川教育委員会	1997/9/11 - 1997/11/26
127	斎田保育園	北上郡伊達町月見1-100459	92.34	赤字地	範久	1997/11/20 - 1997/11/21	小瀬川教育委員会	1997/11/20 - 1997/11/21
128	/木小塩地	印旛郡木下町人見1-253地	400.00	赤字地	柳文・平井	1997/11/25 - 1997/12/26	斎田教育委員会	1997/11/25 - 1997/12/26
129	川の尾保育園	東八代郡阿賀野町川の尾1-1他	64.00	赤字地	前文・宇津横	1997/12/4 - 1997/12/4	川の尾教育委員会	1997/12/4 - 1997/12/4
130	原城城跡	甲子園市原城跡494-1他	600.00	赤字地	近石	1997/9/10 - 1997/12/26	原城教育委員会	1997/9/10 - 1997/12/26
131	神社講堂	北上郡伊達町水門671-3	55.00	赤字地	長松	1997/11/9 - 1997/11/20	東下教育委員会	1997/11/9 - 1997/11/20
132	原木先蛇	東八代郡阿賀野町原木454地	923.95	赤字地	柳・平・山・近	1997/12/9 - 1998/1/31	八代教育委員会	1997/12/9 - 1998/1/31
133	桃ノ木の御陣跡	東八代郡阿賀野町桃ノ木405-3	24.00	赤字地	柳文・平井	1997/12/11 - 1997/12/11	桃ノ木教育委員会	1997/12/11 - 1997/12/11
134	坂内河跡	北上郡伊達町月見1-13	5.00	赤字地	川口	1997/12/8 - 1997/12/26	坂内教育委員会	1997/12/8 - 1997/12/26
135	坂下河跡	北上郡伊達町月見1-238-1	3,000.00	赤字地	柳文・平井	1997/7/23 - 1997/7/23	坂下教育委員会	1997/7/23 - 1997/7/23
136	石室危峰	北上郡伊達町月見1-10060-233	7,071.52	赤字地	柳文	1997/11/4 - 1997/11/4	石室教育委員会	1997/11/4 - 1997/11/4
137	神社下00060-453赤字地	北上郡伊達町月見1-10060-452	2,000.00	赤字地	白瀬原草	1997/12/12 - 1997/12/18	小瀬川教育委員会	1997/12/12 - 1997/12/18
138	赤坂寺跡	東八代郡阿賀野町赤坂寺951地	8,000.00	赤字地	白瀬原草・山野	1997/12/9 - 1997/12/24	赤坂寺教育委員会	1997/12/9 - 1997/12/24
139	金輪寺跡	北上郡伊達町月見1-1545	1,192.50	赤字地	柳・山・近	1997/12/14 - 1998/3/31	金輪寺教育委員会	1997/12/14 - 1998/3/31
140	新平滑跡	川所白尔丁日461地	1,846.13	赤字地	柳文	1997/2/27 - 1998/2/27	新平滑教育委員会	1997/2/27 - 1998/2/27
141	赤坂寺跡	北上郡伊達町月見1-164地	1,500.00	赤字地	佐井	1997/2/16 - 1998/3/31	平井教育委員会	1997/2/16 - 1998/3/31
142	北戸寺跡	北上郡伊達町月見1-170地	2,000.00	赤字地	柳文・川原	1997/2/19 - 1998/3/31	武川教育委員会	1997/2/19 - 1998/3/31
143	川原寺跡	北上郡伊達町月見1-1703地	7,167.45	赤字地	柳・石器・山人	11/9/7/218 - 1997/7/219	川原寺教育委員会	11/9/7/218 - 1997/7/219
144	念佛寺跡	北上郡伊達町月見1-1703地	18,000.00	赤字地	日向・山・川原	1997/11/4 - 1998/3/31	念佛寺教育委員会	1997/11/4 - 1998/3/31
145	今宿原遺跡	北原原宿原口金城原354-1	6638.87	赤字地	二島	1997/1/16 - 1998/3/31	今宿原教育委員会	1997/1/16 - 1998/3/31
146	足利治跡	福浦市金1-75-1他	9,300.00	赤字地	柳文	1997/1/26 - 1998/3/31	足利教育委員会	1997/1/26 - 1998/3/31
147	人頭渓谷	北上郡伊達町月見1-1702-2地	160.52	赤字地	平・中・近	1997/1/21 - 1998/3/31	当利教育委員会	1997/1/21 - 1998/3/31
148	利川河跡	東八代郡阿賀野町336-1地	75.00	赤字地	山・山・川・山・近	八代教育委員会	1997/1/14 - 1998/1/29	
149	金の上古墳	東八代郡阿賀野町676地	300.00	赤字地	山・山・川・山	菅原教育委員会	1997/1/28 - 1998/1/28	
150	下沖原治跡	東八代郡阿賀野町222-4	46.00	赤字地	柳文	1998/1/28 - 1998/1/28	坂井教育委員会	1998/1/28 - 1998/1/28

153 上原保育園	東八代町高瀬川町字下野293-1	42.00 諸工作	職又	その他の施設(足場)	鶴川町教育委員会	1998/1/28~1998/1/28
154 宮城	川上保育園二町山153-5	18.00 その他の施設(足場)	清正	生徒	鶴川町教育委員会	1998/2/3~1998/2/4
154 (小) 滝井	川上保育園二町山153-5	1,181.62 築地・其等の 築地造営	生徒・吉典	宅地造成	川西町教育委員会	1998/2/2~1998/3/31
155 片桐益	川上保育園所新校舍全室計1,541-097坪	2,287.00 敷地・敷地内	義文	その他の施設(足場)	高野町教育委員会	1998/2/12~1998/2/19
156 下田在原跡	北川上保育園下原町字995-6他	500.00 敷地	義文	敷地開拓	小国町教育委員会	1998/1/28~1998/1/20
157 岩谷り添跡	川上保育園口開所下原町字995-6他	51.96 敷地	中世・生徒	生徒生活	日高町教育委員会	1998/2/12~1998/2/12
158 吉川舟渡跡	山447-71山形町(1068-6)	71.50 敷地	科 勤・平	その他の施設(足場等)	川棚町教育委員会	1998/2/6~1998/2/27
159 (下) 須佐折瀬跡	北川上保育園下原町字995-2の1番	114.15 敷地	朝文・波立	生徒	小国町教育委員会	1998/2/16~1998/2/20
160 (下) 桐野跡	北川上保育園大泉町字995-10他	270.00 施設	義文	農耕	山形町教育委員会	1998/3/2~1998/3/16
161 古野跡	北川上保育園下原町字995-2の1番	2,779.90 敷地	義文	地盤造成	小国町教育委員会	1998/2/23~1998/3/25
162 焼津塙跡	東八代町高瀬川村小山西町字58-1	250.00 敷地	義文	自耕	鶴川町教育委員会	1998/3/2~1998/3/27
163 間72分里塙跡	東八代町高瀬川村小山西町字58-1他	16,760.90 その他の施設(金庫)	古寺・平	その他の施設(監視室等)	鶴川町教育委員会	1998/3/4~1998/3/30
164 吉井八入塙	川上保育園下原町字995-3	509.00 敷地	中世	住宅	中世・吉井	中世・吉井
165 (下) 丹波野原跡	川上保育園下原町字995-0.2	8.00 施設	近松	住宅	中世・吉井	1998/3/2~1998/3/16
166 伐木	川上保育園下原町字995-1他	48.00 その他の施設(足場)	近松	住宅	中世・吉井	1998/3/10~1998/3/10
167 新井小引跡	北川上保育園下原町字995-1他	760.00 施設	義文	道路	高麗町教育委員会	1998/2/26~1998/3/10
168 神奈曾塙跡	東八代町高瀬川村小山西町字58-1他	50.00 施設	古寺・平	学習研究(田舎講習)	鶴川町教育委員会	1998/3/10~1998/3/31
169 (下) 丹波野原跡	川上保育園下原町字995-8他	162.50 施設	中世	その他の施設(倉庫等)	中世・丹波野原	1998/3/13~1998/3/13
170 77年春耕跡	川上保育園下原町字995-1他	1,475.00 田園地	中世	その他の施設(生産室)	中世・丹波野原	1998/3/17~1998/3/25
171 金平委託	中川上保育園下原町字995-1他	53.75 築地	中世	施設開拓	白石町教育委員会	1998/3/16~1998/3/16
172 金平八条草薙塙	東八代町高瀬川村小山西町字58-1他	160.00 その他の施設(金庫等)	金平・平安	その他の施設(監視センター)	八代町教育委員会	1998/3/12~1998/3/27
173 月原保育園跡	川上保育園下原町字995-3	155.93 築地	中世	作務	中世・月原保育園	1998/3/23~1998/3/27
174 (下) 佐井塙	川上保育園下原町字995-3	565.46 施設	近松	宅地造成	早川町教育委員会	1998/3/23~1998/3/30
175 亂塙	川上保育園下原町字995-3	8.00 その他の施設(足場等)	近松	住宅	王玉川町教育委員会	1998/3/23~1998/3/23
176 沼田塙跡	川上保育園下原町字995-3	9.00 施工場	近松	住宅	沼田町教育委員会	1998/3/23~1998/3/23
177 大津塙跡	東八代町高瀬川村字995-2の1	131.00 施工場	義文	その他の施設(倉庫)	鶴川町教育委員会	1998/3/23~1998/3/23
178 不神寺塙跡	東八代町高瀬川村字995-2の1	67.00 施工場	義文	宅地造成	鶴川町教育委員会	1998/3/23~1998/3/31
179 立と志塙	東八代町高瀬川村字995-2の1	103.00 施工場	義文・吉典	宅地造成	鶴川町教育委員会	1998/3/23~1998/3/31
180 (下) 佐井塙	東八代町高瀬川村字995-2の1	27.00 施工場	義文	住宅	海田町教育委員会	1998/3/23~1998/3/31
181 (下) 佐井塙	東八代町高瀬川村字995-1他	50.00 施工場	義文・吉典	宅地造成	鶴川町教育委員会	1998/3/23~1998/3/26
182 朝倉印高塙	石井市鶴見町下条前町字105-1他	15.00 その他の施設(金庫等)	中世・吉典	公園造成	益壽町教育委員会	1998/2/26~1998/2/26
183 佐子の神塙跡	東八代町高瀬川村字995-2他	180.00 施工場	義文・平安	その他の施設(ガラス等)	東川村教育委員会	1998/3/26~1998/3/31



年 報 14

印刷日 平成10年3月25日
発行日 平成10年3月31日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根923
TEL 0552-66-3881・0552-66-3016
FAX 0552-66-3882

印刷所 株式会社 島南堂印刷所
TEL 0552-35-2528

